Author's personal copy

[46] Manocha M, Pal PC, Chitralekha KT, Thomas BE, Tripathi V, Gupta SD, et al. Enhanced mucosal and systemic immune response with intranasal immunization of mice with HIV peptides entrapped in PLG microparticles in combination with Ulex Europaeus-I lectin as M cell target. Vaccine 2005;23:5599–617.
[47] Nochi T, Yuki Y, Matsumura A, Mejima M, Terahara K, Kim DY, et al. A novel M cell-specific carbohydrate-targeted mucosal vaccine effectively induces antigen-specific immune responses. J Exp Med 2007;204: 2789–96.
[48] Wang X, Kochetkova I, Haddad A, Hoyt T, Hone DM, Pascual DW. Transgene vaccination using Ulex europaeus agglutinin I (UEA-1) for targeted mucosal immunization against HIV-1 envelope. Vaccine 2005;23:3836–42.
[49] Hanna PC, Wieckowski EU, Mietzner TA, McClane BA. Mapping of functional regions of *Clostridium perfringens* type A enterotoxin. Infect Immun 1992;60:2110–4.
[50] Morita K, Furuse M, Fujimoto K, Tsukita S. Claudin multigene family encoding four-transmembrane domain protein components of tight junction strands. Proc Natl Acad Sci U S A 1999;96:511–6.
[51] Chiba H, Osanai M, Murata M, Kojima T, Sawada N. Transmembrane proteins of tight junctions. Biochim Biophys Acta 2008;1778:588–600.
[52] Rahner C, Mitic LL, Anderson JM. Heterogeneity in expression and subcellular localization of claudins 2, 3, 4, and 5 in the rat liver, pancreas, and gut. Gastroenterology 2001;120:411–22.
[53] Debertin AS, Tschernig T, Tonjes H, Kleemann WJ, Troger HD, Pabst R. Nasal-associated lymphoid tissue (NALT): frequency and localization in young children. Clin Exp Immunol 2003;134:503–7.
[54] Koornstra PJ, de Jong FI, Vlek LF, Marres EH, van Breda Vriesman PJ. The Waldeyer ring equivalent in the rat. A model for analysis of oronasopharyngeal immune responses. Acta Otolaryngol 1991;111:591–9.

—Reviews—

肝細胞機能制御を目的とした新規培養システムの開発

八木清仁,* 川瀬雅也,[a] 磯田勝広,[b] 近藤昌夫

Development of Novel Culture System for Regulation of Hepatocyte Function

Kiyohito YAGI,* Masaya KAWASE,[a] Katsuhiro ISODA,[b] and Masuo KONDOH
Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University, 1-6 Yamada-oka, Suita, Osaka 565-0871, Japan

(Received October 1, 2009)

Cultured hepatocytes are expected to be used for drug screening and bioartificial liver. Since hepatocytes lose their functions very rapidly *in vitro*, many attempts have been made to maintain their viability and functions. First, we want to introduce the surface modification of culture substrate using a starburst dendrimer. Addition of fructose to the terminal of the dendrimer was shown to be effective in maintianing hepatocyte function. As the second topic, we will show results of the use of a three-dimensional carrier for hepatocyte cultivation. Hepatocytes and bone marrow stromal cells were cocultured in silane beads, and packed into a radial flow-type bioreactor. The perfusion culture showed the effectiveness of bone marrow stromal cells for the maintenance of hepatocyte function. The next topic will be the trial of adenoviral gene transfer into hepatocytes. Thioredoxin gene was chosen because the products play important roles in redox control and antiapoptosis. The introduction of the gene could inhibit apoptosis and maintain the hepatocyte viability. Finally, we want to introduce the results on differentiation of stem cells into hepatocytes, because it is very difficult to obtain sufficient number of human hepatocytes. Human mesenchymal stem cells were cultured in the presence of several protein factors and the hepatocyte-specific marker was expressed after 2 weeks of induction culture. The use of human stem cells could be an important strategy for the support of a drug development system.

Key words——dendrimer; hepatocyte; radial flow-type bioreactor; mesenchymal stem cell

1. はじめに

培養肝細胞は医薬品開発のスクリーニング系やバイオ人工肝臓への応用が期待されているがその機能は viability の低下に伴い急速に消失していくため，機能維持を目的とした研究が活発に行われている．本総説ではこれまで我々が検討してきた培養基材の表面修飾，3 次元培養，遺伝子導入，肝細胞の分化誘導について紹介する．足場依存性の細胞は培養基材の性質によって viability が著しく変動することが知られており，機能維持の成否は優れた培養基材の開発に依存していると言っても過言ではない．そこで機能性材料として注目されている樹木状高分子デンドリマーを用いた基材表面修飾の検討において，デンドリマーの末端にフルクトースを付加すると培養肝細胞の生存性，機能が良好に維持されたことを示す．また培養用ディッシュを用いた 2 次元培養では応用範囲が限られるため培養工学的検討として多孔性担体を用いた 3 次元培養の試みを紹介する．さらに細胞を接着させた 3 次元担体をラジアルフロー型バイオリアクターに充填し潅流培養を行った検討において，肝細胞と骨髄間質細胞との共培養が機能維持に効果的であったことを示す．次に遺伝子工学的アプローチとしてアデノウィルスベクターを用いてチオレドキシン遺伝子を導入することにより，肝細胞のアポトーシスを制御することが可能であったことを紹介する．最後に，細胞源に関する検討として再生医工学的アプローチによりヒト由来間葉系幹細胞を肝細胞へ誘導する試みを紹介し創薬支援システムへの応用について考察したい．

大阪大学大学院薬学研究科（〒565-0871 吹田市山田丘 1-6）
現所属：[a]長浜バイオ大学バイオサイエンス学科（〒526-0829 長浜市田村町 1266），[b]帝京平成大学薬学部（〒290-0193 市原市潤井戸 2289）
*e-mail: yagi@phs.osaka-u.ac.jp

本総説は，日本薬学会第 129 年会シンポジウム S24 で発表したものを中心に記述したものである．

2. 機能性培養基材による肝機能制御

1985 年に Tomalia らによって報告されたデンド

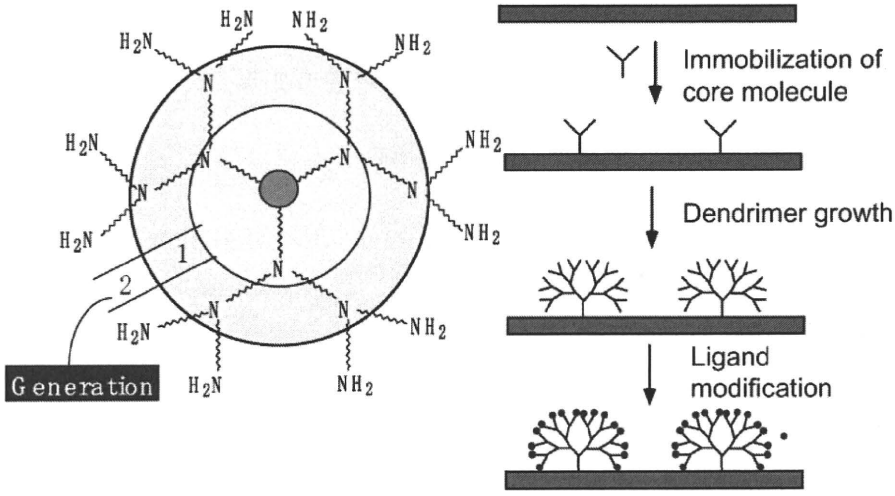


Fig. 1. Structure of Polyamidoamine Dendrimer and Application for Cell Culture

リマーは樹木状多分岐高分子であり,[1]様々な領域でその応用が検討されている．直径は約数十 nm の分子であり，Fig. 1 で示すように，中心部分のコア，骨格分子，末端アミノ基から構成され，正確な分子設計が可能である．デンドリマーは規則的な枝分かれ構造を有する分子で，中心のコア分子から，段階的に伸長反応を行うことで枝分かれ数を増加させることができる．また，伸長反応を繰り返すことにより最外部の密度が高くなり，内部の密度が低くなっている．Figure 1 に示すようなポリアミドアミンデンドリマーは末端アミノ基部分の外表面が正に帯電しており，反応性が高い特徴を有している．このような特徴を活かして，様々な分野でデンドリマーの研究が行われている.[2-5] 医療分野へのデンドリマーの応用としては，内部の密度が粗であることを利用して，デンドリマー内部に薬物や遺伝子の封入，また外部の反応性の高さを利用して外部固定を行っている．デンドリマーにアンチセンス遺伝子を導入，またデンドリマー外部に薬物を固定化することによる薬物の徐放化の検討も行われている．

このようなデンドリマーの特徴を活かし，筆者らはデンドリマーにリガンド分子を結合させ，肝細胞培養基材とする方法を考案した．Figure 2 に示すようにカリウム *tert*-ブトキシドを用い基材表面にヒドロキシル基を導入し，グルタルアルデヒドを介してデンドリマーの固定化を行った．世代増加反応はこの反応を繰り返すことにより行い，最後に末端アミノ基へリガンド分子を結合させた．

筆者らはこれまでにキトサンゲル上で肝実質細胞を培養することに成功しており，特にキトサンの分子内アミノ基をフルクトースにより修飾したフルクトースキトサン上では未修飾のキトサンゲルよりも多くの細胞が接着し，肝特異的機能を維持することを報告した．そこでフルクトースに注目し，フルクトースをリガンドとしたフルクトースデンドリマーについて検討した．細胞非接着性のポリスチレンプレートにデンドリマーを固定化し，リガンドとしてフルクトースを修飾した．その結果，デンドリマーの世代数増加に伴い，修飾されたフルクトースも増加することを確認した．フルクトースデンドリマー上で数日培養を行うと成長因子などの添加なしに，細胞が高機能化すると言われるスフェロイド（球状組織体）を形成した.[6] しかし，ここではスフェロイドの接着性が弱く，さらに接着性を上げる必要が生じた．そこで，リガンドとしてフルクトースと，肝細胞表面に存在するアシアロ糖タンパクレセプターのリガンドとなるガラクトースの混合溶液をリガンド溶液とし，共固定した F/G デンドリマーを用いたところ，スフェロイドの接着が維持された．この，F/G デンドリマー上で培養したラット初代

八木清仁

大阪大学大学院薬学研究科教授．1981 年大阪大学大学院博士後期課程修了（薬学博士）．1982–1984 年米国メリーランド大薬学部，NIH（NIEHS）で博士研究員として勤務．1983 年大阪大学薬学部助手．1992 年同助教授，2000 年 3 月より現職．現在 C 型肝炎など肝疾患を対象とした創薬研究に取り組んでいる．

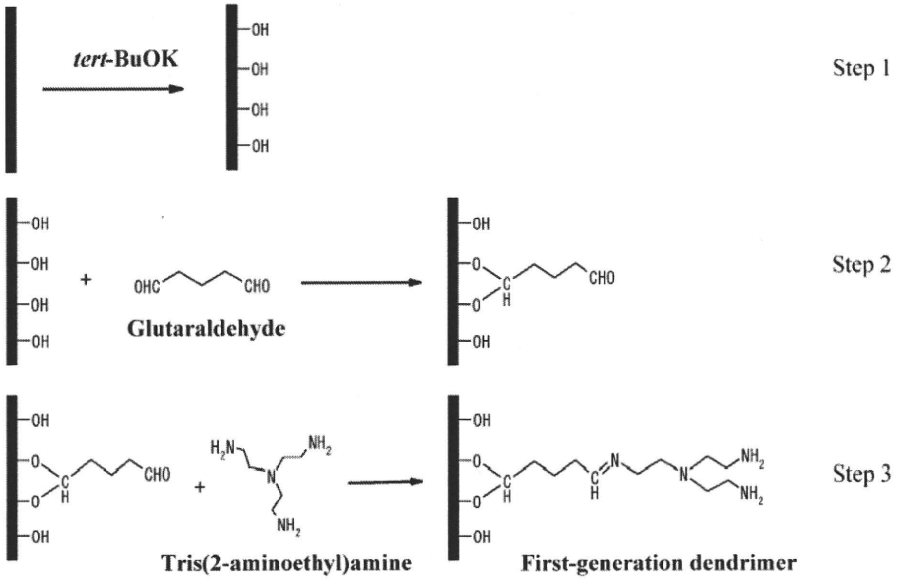


Fig. 2. Schematic Illustration of Dendrimer Immobilization onto the Surface of Polystyrene Plate

肝細胞は，リガンドがフルクトース，ガラクトース単独のものに比べ，肝特異的機能であるウレア合成能が向上し，アルブミン遺伝子の発現も維持しており，機能維持についても優れていることが確認できた．また，共焦点レーザー顕微鏡による解析から，リガンドのないデンドリマー上のスフェロイド内部の細胞はアポトーシスを起こしているのに対し，F/G デンドリマー上のスフェロイドではアポトーシスが抑制されていることを確認した．[7]

リガンド修飾デンドリマーを基材表面上に固定し，細胞培養に用いるアイデアは筆者ら独自のものである．これまでの検討から，細胞毎に異なるリガンドを用いることで，リガンド修飾デンドリマーによって最適な細胞培養表面の創出が可能であることを示してきた．大阪大学基礎工学研究科の田谷正仁教授のグループは筆者らとの共同研究においてデンドリマーの密度を変化させることにより軟骨細胞の形態，分化機能を制御することに成功した．[8,9] また D-グルコースと Epidermal growth factor をリガンドとして用いると細胞の増殖及び運動性を亢進できることを報告している．[10] さらに大阪大学医学系研究科の宮崎純一教授のグループは D-グルコースをデンドリマーにより培養表面に提示すると ES 細胞の未分化能が有意に維持されることを見い出している．[11] このようにリガンド修飾デンドリマーは，細胞毎に最適化したカスタムメイドの培養基材表面創出のツールとなり，組織工学全般の発展に大きく貢献することが期待される．

3. 3 次元培養による肝機能制御

ラジアルフロー型バイオリアクター（RFB）は一般に円筒形のリアクター内に細胞接着用の担体を充填し円筒周囲より培養液あるいは血漿が中心部に向けて流れる構造をしている．RFB は従来のリアクターに比べ，潅流液の流速による剪断力が弱いため細胞障害が少なく，酸素や栄養物の供給がより均一に行われることが知られている．これまで動物細胞が 1×10^8 cells/ml 以上の高密度で培養可能であることが示されている．[12] 筆者らは RFB をバイオ人工肝臓に応用することを目的とし多孔質ガラスビーズ（シランビーズ）を担体として肝細胞の潅流培養を行った．Figure 3 に RFB を用いた培養システム図を示した．筆者らは骨髄間質細胞を肝細胞の生存性を延長し機能を強化するための支援細胞として選択した．骨髄間質細胞は骨髄においてコラーゲン，フィブロネクチンを始めとする細胞外マトリクスや種々の増殖因子を産生し，造血幹細胞や血球系の細胞の維持に重要な役割を演じていることが知られている．プラスティックディッシュによる 2 次元培養の実験より骨髄由来の間質細胞が肝細胞の機能を維持する効果があることを既に明らかにしており，[13] その効果が 3 次元担体を用いた RFB において発現するか否かを検討した．

実験は SD 系雄性ラット由来の細胞を用いて行った．肝細胞は生体内においては肝再生時旺盛に増殖

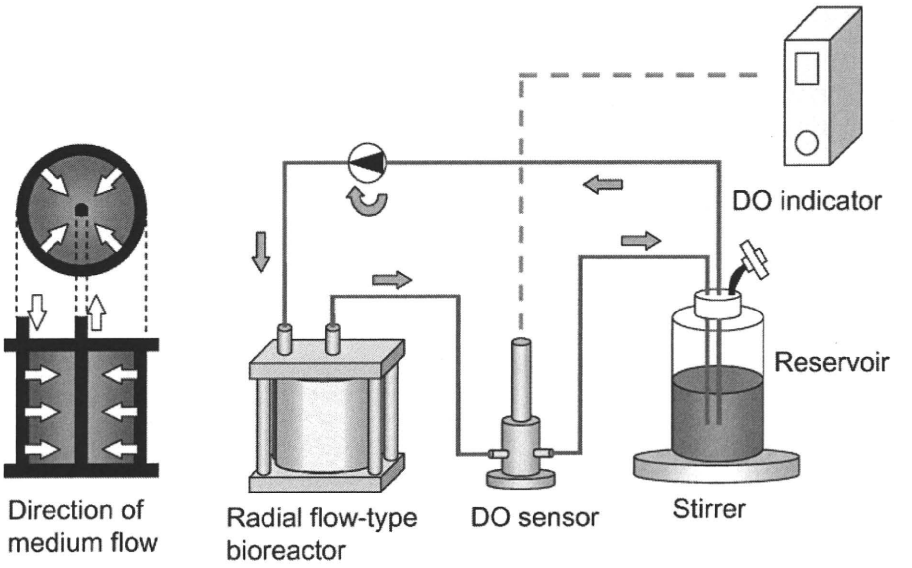


Fig. 3. Perfusion Culture of Hepatocytes by Radial Flow-type Bioreacor

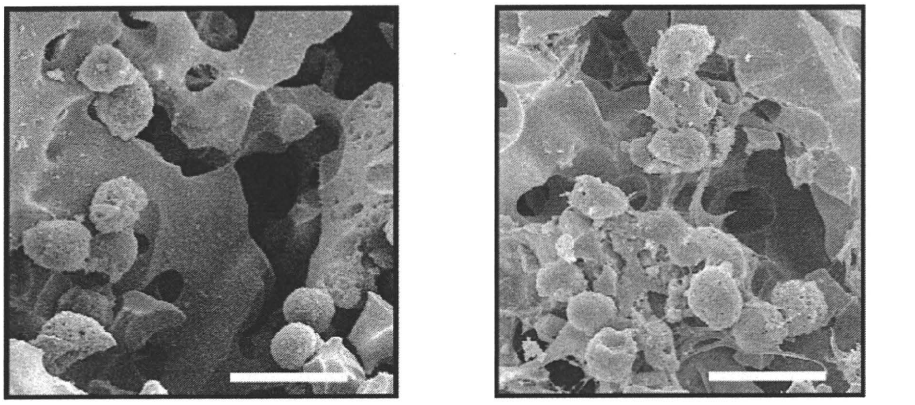


Fig. 4. Electron Micrographs of Hepatocytes Cultured in Silan Beads
White bar indicates 50 μm.

するが *in vitro* では増殖させることは困難であるため初期接着した細胞数を維持することが重要となる．一方骨髄間質細胞は *in vitro* で活発に増殖するため，共培養時には最初に骨髄間質細胞を播種し担体上でサブコンフルエントに達するまで培養した後に肝細胞を播種した．Figure 4 にシランビーズを用いた肝細胞単独培養，骨髄間質細胞との共培養を行った際の電子顕微鏡写真を示した．単独培養では直径約 15–20 ミクロンの球状をした肝細胞がシランビーズ上に接着している様子が観察される．一方共培養においてはシランビーズ上に伸展した骨髄間質細胞に肝細胞が接着していた．そしてそれぞれのシランビーズを充填した RFB を用いて 4 日間の連続灌流培養を行った．その間 24 時間おきにサンプリングを行い，肝特異機能である尿素合成能を評価した．その結果，対照として行った肝細胞単独の 2 次元培養では 4 日間で機能は約 9% に低下したが，RFB の 3 次元培養においては 29% までの低下にとどまった．したがって RFB による灌流培養の効果が示された．さらに骨髄間質細胞との共培養により 47% の機能が有意に維持され，肝細胞に対する効果が 2 次元培養のみならず RFB を用いた 3 次元培養においても発現することが明らかとなった．骨髄間質細胞は培養によって増幅することが可能でありヒト由来，あるいは患者自身の細胞を将来使用することも視野におくとバイオ人工肝臓の機能を強化し得

る細胞源として有望と考えている．さらには骨髄細胞中には肝細胞へ分化可能な間葉系幹細胞（MSC）が存在することから患者由来の細胞を利用した薬物代謝評価系の構築も可能であり個の医療への応用も期待される．

4. 遺伝子導入による肝機能制御

これまで肝がん細胞にアンモニア代謝，薬物代謝に係わる個々の遺伝子を導入する試みは国内の他グループにより報告されている．[14,15] われわれは人工肝臓が担うべき数百という肝機能を考慮し細胞全体をグローバルに活性化し，かつ細胞死に対する抵抗性を付与することを目的として遺伝子導入を試みている．

チオレドキシンと呼ばれるタンパク質はリボヌクレオチドリダクターゼの生理的還元剤として発見されたが酸化的ストレスやアポトーシスに対して抵抗性を付与するという機能が報告され注目を浴びている．[16,17] われわれはこのチオレドキシン遺伝子を肝細胞へ導入することにより生体外において引き起こされるストレス及びアポトーシスに対し抵抗性を獲得させることを試みた．肝細胞は生体外では増殖が困難であること，そして遺伝子導入効率を考慮しアデノウィルスをベクターとして用いることとした．ヒトチオレドキシン遺伝子を挿入した組換えアデノウィルスを作成しラット肝細胞へ感染させた．ヒトチオレドキシンが発現していることをウェスタンブロットで確認後，過酸化水素処理に対する抵抗性を調べた．1 mM 過酸化水素で 24 時間処理した後，アポトーシスを起こした細胞数を fluorescence activated cell sorting（FACS）により測定した．コントロールの肝細胞は約 80％がアポトーシスを起こしたのに対し，チオレドキシン遺伝子を導入した肝細胞は約 25％とアポトーシスに対して抵抗性を獲得したことが示された．また，通常のポリスチレンプレートで培養したときの寿命が延長されるか否かを調べたところ明らかな効果が観察された．尿素合成能も同時に維持されチオレドキシン遺伝子導入の有効性が示された．[18] リアクターへ充填する細胞へ当該遺伝子をウィルスベクターを用いて導入することも可能であり，またチオレドキシントランスジェニック動物を作出しその肝細胞をバイオ人工肝臓や医薬品開発のスクリーニング系に適用することも将来可能となるであろう．

5. 肝細胞源の検討

肝細胞源としてはヒトの細胞を用いることが理想的である．再生医療用の細胞源としてこれまで ES 細胞，骨髄細胞などが主に検討されてきたがわれわれは通常廃棄される組織から肝細胞へ分化可能な幹細胞を単離することができれば有用であると考えた．歯科領域では歯髄から MSC が単離されたことが報告されており，[19,20] 抜歯され廃棄される歯に着目した．虫歯の場合，病原菌が含まれ再生医療に適用することは困難であるため，歯科矯正時に抜歯される第 3 大臼歯，通称“親知らず”を用いることとした．矯正時に抜歯されるものは埋伏した状態であり，未分化な歯胚組織が維持されている可能性が高く，分化が進むと象牙質，歯髄となる歯乳頭組織には有用な MSC が存在することが予想された．そこでインフォームドコンセントを得た後，破棄された親知らずより歯乳頭組織を採取し MSC のクローン単離を試みた．

歯乳頭組織をはさみで細かく切断し，コラゲナーゼにより細胞を分散後組織培養用ディッシュに播種し α-MEM を用いて培養を行った．接着性の細胞を回収し FACS を用いて 96 穴プレートの 1 ウェルあたり 1 つの細胞が入るように播種した．単一細胞からコロニー形成したものを継代しさらに増殖させ，2×10^4 cells を分化能の評価に使用し，残りの細胞を凍結保存した．カルセインを利用した骨分化能を指標として幹細胞としての特性を有するクローンの選択を行った結果，コロニー形成能を有するものの約 30％が骨分化能を発現した．その中から特に高い骨分化能を示したクローンを用いて以下の検討を行った．

肝細胞への分化誘導には Hamazaki らの方法[21] に準じ，HGF，デキサメタゾン，ITS に加えて線維芽細胞増殖因子（FGF），オンコスタチン M（OSM）を用いた．培養初期には細長い線維芽細胞用の形態であるが分化誘導を継続するにつれ，2 週間後にはサイズの大きい多角の形態へと変化した．RT-PCR による解析の結果，分化誘導 10 日でアルブミン遺伝子の発現が観察され，逆に初期分化マーカーである AFP 遺伝子発現は減少する傾向にあった．次に肝障害ラットを用いて移植の効果を検討した．

ヒト細胞を移植するため拒絶反応を起こさない免疫不全のヌードラットを使用した．9 週齢のフィッ

シャー 344 系ヌードラットの門脈から四塩化炭素 (1 ml/kg body weight) を週 2 回，4 週間投与し肝傷害を与えた．分化誘導培地あるいは非誘導培地で培養後蛍光色素である PKH26 で染色し，四塩化炭素初回投与 2 日後に門脈より 1×10^7 個の細胞を移植した．コントロールとしては四塩化炭素の替わりにオリーブオイルを腹腔内投与したもの，及び四塩化炭素を投与し細胞の替わりに生理食塩水を門脈から投与したもの (sham operation) を用意した．凍結肝臓切片を作成し蛍光観察を行った．細胞移植群においては誘導培地，非誘導培地で培養した双方で生着が確認された．骨髄由来の間葉系幹細胞 (BMSC) を移植した際には個々の蛍光が散在していたが，[22] 歯胚由来細胞移植の場合はコロニー状の像が観察されたことから生着後に増殖したものと思われる．*In vitro* の培養において歯胚由来細胞は BMSC に比べ旺盛な増殖能を有しており，生着後の増殖を可能にしたものと思われる．

分化誘導した細胞の移植群では有意に血清 AST, ALT 値の低下，肝線維化の抑制が観察された．非誘導培地で培養した細胞を移植した群は肝臓内に生着していたにもかかわらず有意な治癒効果は現われなかった．これらの結果より肝細胞への方向付けを行うことが重要であることが示された．[23] このように破棄される組織から再生医療に有用な幹細胞が得られることは重要であり，自己の親知らずを抜歯した際，歯胚由来幹細胞を細胞バンクに保存しておけば自身の細胞を肝疾患の治療に利用することが可能となるであろう．また旺盛な増殖能があることから移植までのつなぎとしてバイオ人工肝臓へ利用することができること，医薬品スクリーニングの評価系としても，倫理的な問題を持つ ES 細胞，強制的に未分化状態に回帰させた iPS 細胞由来のものに比べ有用であると考えている．

6. おわりに

創薬の過程で毒性，有効性，及び薬物代謝の評価に大量の動物が用いられてきたが，今後動物愛護の観点から *in vitro* の評価に置き換えていくことが求められている．肝細胞は毒性や薬物代謝を評価する際に重要な役割を果たすことは明らかであるがこれまで初代培養細胞の不安定性から有用な評価系は構築されていない．一般的に肝細胞のような足場依存性の細胞は培養表面の性状によりその生存性，機能が著しく変動することが知られている．本総説ではデンドリマーを用いる機能性培養基材の創製，3 次元培養による機能維持効果，また遺伝子導入による寿命延長について筆者らの成果を紹介した．最小限の細胞で評価系を構築することに役立つ技術開発につながればと願っている．さらに通常廃棄されるヒトの組織から肝細胞を分化誘導し細胞源として用いることができれば倫理的問題，種による差異を含め種々の問題点を解決できることになろう．

REFERENCES

1) Tomalia D. A., Baker H., Dewald J., Hall M., Kallos G., Martin S., Roeck J., Ryder J., Smith P., *Polym. J.*, **17**, 117–132 (1985).
2) Bielinska A., Kukowska-Latallo J. F., Johnson J., Tomalia D. A., Baker J. R. Jr., *Nucleic Acids Res.*, **24**, 2176–2182 (1996).
3) Braun C. S., Vetro J. A., Tomalia D. A., Koe G. S., Koe J. G., Middaugh C. R., *J. Pharm. Sci.*, **94**, 423–436 (2005).
4) Svenson S., Tomalia D. A., *Adv. Drug Deliv. Rev.*, **57**, 2106–2129 (2005).
5) Tomalia D. A., Reyna L. A., Svenson S., *Biochem. Soc. Trans.*, **35**, 61–67 (2007).
6) Kawase M., Shiomi T., Matsui H., Ouji Y., Higashiyama S., Tsutsui T., Yagi K., *J. Biomed. Mater. Res.*, **54**, 519–524 (2001).
7) Higashiyama S., Noda M., Kawase M., Yagi K., *J. Biomed. Mater. Res.*, **64A**, 475–482 (2003).
8) Kim M.-H., Kino-oka M., Kawase M., Yagi K., Taya M., *J. Biosci. Bioeng.*, **103**, 192–199 (2007).
9) Kino-oka M., Morinaga Y., Kim M.-H., Takezawa Y., Kawase M., Yagi K., Taya M., *Biomaterials*, **28**, 1680–1688 (2007).
10) Kim M.-H., Kino-oka M., Kawase M., Yagi K., Taya M., *J. Biosci. Bioeng.*, **104**, 428–431 (2007).
11) Mashayekhan S., Kim M.-H., Miyazaki S., Tashiro F., Kino-oka M., Taya M., Miyazaki J.-I., *Biomaterials*, **29**, 4236–4243 (2008).
12) Hongo T., Kajikawa M., Ishida S., Ozawa S., Ohno Y., Sawada J.-I., Umezawa A., Ishikawa Y., Kobayashi T., Honda H., *J. Biosci. Bioeng.*, **99**, 237–244 (2005).
13) Isoda K., Takeda M., Higashiyama S., Ka-

wase M., Yagi K., *J. Biosci. Bioeng.*, **97**, 343–346 (2004).
14) Enosawa S., Miyashita T., Suzuki S., Li X. K., Tsunoda M., Amemiya H., Yamanaka M., Hiramatsu S., Tanimura N., Omasa T., Suga K., Matsumura T., *Cell Transplant.*, **9**, 711–715 (2000).
15) Wang N., Tsuruoka S., Yamamoto H., Enosawa S., Omasa T., Sata N., Matsumura T., Nagai H., Fujimura A., *Artif. Organs*, **29**, 681–684 (2005).
16) Saitoh M., Nishitoh H., Fujii M., Takeda K., Tobiume K., Sawada Y., Kawabata M., Miyazono K., Ichijo H., *EMBO J.*, **17**, 2596–2606 (1998).
17) Kondo N., Nakamura H., Masutani H., Yodoi J., *Antioxid. Redox Signal.*, **8**, 1881–1890 (2006).
18) Tsutsui T., Koide H., Fukahori H., Isoda K., Higashiyama S., Maeda I., Tashiro F., Yamato E., Miyazaki J., Yodoi J., Kawase M., Yagi K., *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **307**, 765–770 (2003).
19) Gronthos S., Mankani M., Brahim J., Robey P. G., Shi S., *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, **97**, 13625–13630 (2000).
20) Pierdomenico L., Bonsi L., Calvitti M., Rondelli D., Arpinati M., Chirumbolo G., Becchetti E., Marchionni C., Alviano F., Fossati V., Staffolani N., Franchina M., Grossi A., Bagnara G. P., *Transplantation*, **80**, 836–842 (2005).
21) Hamazaki T., Iiboshi Y., Oka M., Papst P. J., Meacham A. M., Zon L. I., Terada N., *FEBS Lett.*, **497**, 15–19 (2001).
22) Oyagi S., Hirose M., Kojima M., Okuyama M., Kawase M., Nakamura T., Ohgushi H., Yagi K., *J. Hepatol.*, **44**, 742–748 (2006).
23) Ikeda E., Yagi K., Kojima M., Yagyuu T., Ohshima A., Sobajima S., Tadokoro M., Katsube Y., Isoda K., Kondoh M., Kawase M., Go M., Adachi H., Yokota Y., Kirita T., Ohgushi H., *Differentiation*, **76**, 495–505 (2008).

European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics 75 (2010) 213–217

Contents lists available at ScienceDirect

European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics

journal homepage: www.elsevier.com/locate/ejpb

Research paper

Claudin-4-targeting of *diphtheria* toxin fragment A using a C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin

Hideki Kakutani [a], Masuo Kondoh [a,*], Rie Saeki [a], Makiko Fujii [b], Yoshiteru Watanabe [b], Hiroyuki Mizuguchi [c,d], Kiyohito Yagi [a,*]

[a] *Laboratory of Bio-Functional Molecular Chemistry, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University, Osaka, Japan*
[b] *Department of Pharmaceutics and Biopharmaceutics, Showa Pharmaceutical University, Tokyo, Japan*
[c] *Laboratory of Gene Transfer and Regulation, National Institute of Biomedical Innovation, Osaka, Japan*
[d] *Department of Biochemistry and Molecular Biology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University, Osaka, Japan*

ARTICLE INFO

Article history:
Received 30 October 2009
Accepted in revised form 4 March 2010
Available online 11 March 2010

Keywords:
Claudin
Targeting
Cancer
Diphtheria toxin
Clostridium perfringens enterotoxin

ABSTRACT

Claudin (CL)-4, a tight junction protein, is overexpressed in some human neoplasias, including ovarian, breast, pancreatic and prostate cancers. The targeting of CL-4 is a novel strategy for tumor therapy. We previously found that the C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin (C-CPE) binds to CL-4. In the present study, we genetically prepared a novel CL-4-targeting molecule (DTA–C-CPE) by fusion of C-CPE and *diphtheria* toxin fragment A (DTA). Although DTA is not toxic to CL-4-expressing L cells, even at 20 μg/ml, DTA–C-CPE is toxic to CL-4-expressing L cells at 1 μg/ml. DTA–C-CPE-induced cytotoxicity was attenuated by pretreatment of the cells with C-CPE but not bovine serum albumin, indicating that DTA–C-CPE may bind to CL-4-expressing L cells through its C-CPE domain. To evaluate the specificity of DTA–C-CPE, we examined its cytotoxic effects in L cells that express CL-1, -2, -4 or -5. We found that DTA–C-CPE was toxic to only CL-4-expressing L cells. Thus, C-CPE may be a promising ligand for the development of cancer-targeting systems.

© 2010 Elsevier B.V. All rights reserved.

1. Introduction

Chemotherapeutic agents target the intracellular metabolic processes or growth rates that are different between malignant cells and normal cells, and rapidly growing cancer cells are sensitive to chemotherapies [1,2]. But, progressive cancer cells with a decreased growth rate respond poorly to chemotherapy [3]. Radiation therapy affects both the tumor and the surrounding normal tissue. These conventional therapies cause DNA damage, leading to genomic instability and susceptibility to neoplastic mutations [4]. Cancer cells often overexpress surface proteins, including growth factor receptors or antigens [5]; thus, targeting cancer cells by using the surface proteins is a promising strategy for cancer therapy. Ligands for growth factor receptors and cytokine receptors have been fused with fragments of bacterial toxins, such as *Pseudomonas* exotoxin and *diphtheria* toxin (DT) [3,6].

Tight junctions (TJs) form the apical junctional complex in epithelial cell sheets and play pivotal roles in the barrier of the epithelial cell sheets and the fence separating basal and apical components, such as receptors and transporters, on the membrane [7]. Epithelial TJs are dynamic structures that are modulated during neoplastic transformation [8]. The relationship between abnormal TJ function and epithelial tumor development has been suggested by earlier studies showing alterations in the TJ structures of epithelial cancers [9,10]. Loss of tight junction integrity may allow the diffusion of nutrients and other factors necessary for the survival and growth of the tumor cells [8]. Destruction of the fence function of TJs can lead to overproliferation of tumor cells [11,12]. If TJ components are exposed to the cell surface in cancer cells, they may be a promising target for cancer therapy.

Claudins (CLs) are key molecules in the formation of TJs; proteins in the 24-member claudin family contain four transmembrane domains [13]. CL-4 is frequently overexpressed in several neoplasias, including ovarian, breast, pancreatic and prostate cancers [12,14]. Thus, CL-4 may be useful as a target molecule in cancer therapy. CL-4 is a receptor for *Clostridium perfringens* enterotoxin (CPE), which is a single 35-kDa polypeptide that causes food poisoning in humans [15]. CPE exhibited anti-tumor activity

Abbreviations: C-CPE, the C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin; DTA, *diphtheria* toxin fragment A; DTA–C-CPE, C-CPE-fused DTA; DT, *diphtheria* toxin; TJ, tight junction; CPE, *C. perfringens* enterotoxin; CL, claudin.

* Corresponding author. Laboratory of Bio-Functional Molecular Chemistry, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University, Osaka 565-0871, Japan. Tel.: +81 6 6879 8196; fax: +81 6879 8199 (M. Kondoh), tel.: +81 6 6879 8195; fax: +81 6879 8195 (K. Yagi).

E-mail addresses: masuo@phs.osaka-u.ac.jp (M. Kondoh), yagi@phs.osaka-u.ac.jp (K. Yagi).

0939-6411/$ - see front matter © 2010 Elsevier B.V. All rights reserved.
doi:10.1016/j.ejpb.2010.03.003

in CL-expressing cancers, such as breast [16], ovarian [17] and pancreatic cancers [18]. They did not observe side effects from CPE treatment, indicating that a ligand for CL-4 may be a promising candidate for cancer-targeting therapy.

CL has very low antigenicity, and there are few antibodies to the extracellular region of CL. CPE is composed of N-terminal cytotoxic domain and C-terminal receptor-binding domain [15]. C-CPE is the C-terminal receptor-binding domain, and C-CPE is the first CL-4-binder [19]. In the present study, we prepared a CL-targeting agent (DTA–C-CPE) consisting of C-CPE coupled to a protein synthesis inhibitory factor, fragment A of DT [20]. DTA–C-CPE had CL-4-specific cytotoxicity; thus, C-CPE may be a promising ligand for the development of cancer-targeting systems.

2. Materials and methods

2.1. Chemicals

Bovine serum albumin (BSA), 2-(2-methoxy-4-nitrophenyl)-3-(4-nitrophenyl)-5-(2, 4-disulfophenyl)-2H-tetrazolium (WST-8) and phosphatase inhibitor cocktail were purchased from Nacalai (Kyoto, Japan). Protease inhibitor cocktail and anti-β-actin mAb were obtained from Sigma–Aldrich (St. Louis, MO). Horseradish peroxidase (HRP)-labeled antibodies were obtained from Chemicon (Temecula, CA). Anti-His-tag antibody was purchased from Novagen (Madison, WI). All other reagents were of research grade.

2.2. Cell culture

L cells, a mouse fibroblast cell line, and mouse CL-expressing L cells were kindly provided by Dr. S. Tsukita (Kyoto University, Japan). Cells were cultured in modified Eagle's medium (MEM) supplemented with 10% fetal calf serum (FBS) at 37 °C.

2.3. Preparation of DTA–C-CPE

DTA (CRM45) cDNA was kindly provided by Dr. K. Kohno (Nara Institute of Science and Technology, Japan) [21]. The plasmids containing DTA fused with C-CPE were prepared as follows. DTA was amplified by polymerase chain reaction (PCR) with pTA–DTA as a template, a forward primer (5′-GCGGTACCATGGGCGCTGAT GATGTTGTTG-3′, *Kpn*I site is underlined) and a reverse primer (5′-CCTTAATTAATCGCCGTACGCGATTTCCTG-3′, *Pac*I site is underlined). The resulting PCR fragments were subcloned into *Kpn*I/*Pac*I-digested $pETH_{10}PER$ (kindly provided by Dr. Y. Horiguchi, Osaka University, Japan), and the sequence was confirmed (pET–DTA–C-CPE). Double-stranded oligonucleotide of G/S linker was prepared by annealing (heating at 95 °C for 5 min and chilling at room temperature for 60 min) of single-strand oligonucleotides, a forward oligonucleotide (5′-TGGAGGAGGAGGATCTGGAGGAGGAGGA TCTGGAGGATACCCATACGACGTCCCAGACTACGCTAT-3′, *Pac*I site is underlined) and a reverse oligonucleotide (5′-AGCGTAGTCTGGGA CGTCGTATGGGTATCCTCCAGATCCTCCTCCTCCAGATCCTCCTCCTCCA AT-3′, *Pac*I site is underlined). The resulting oligonucleotides were subcloned into *Pac*I-digested pET–DTA–C-CPE, and the sequence was confirmed (pET–DTA-linker-C-CPE).

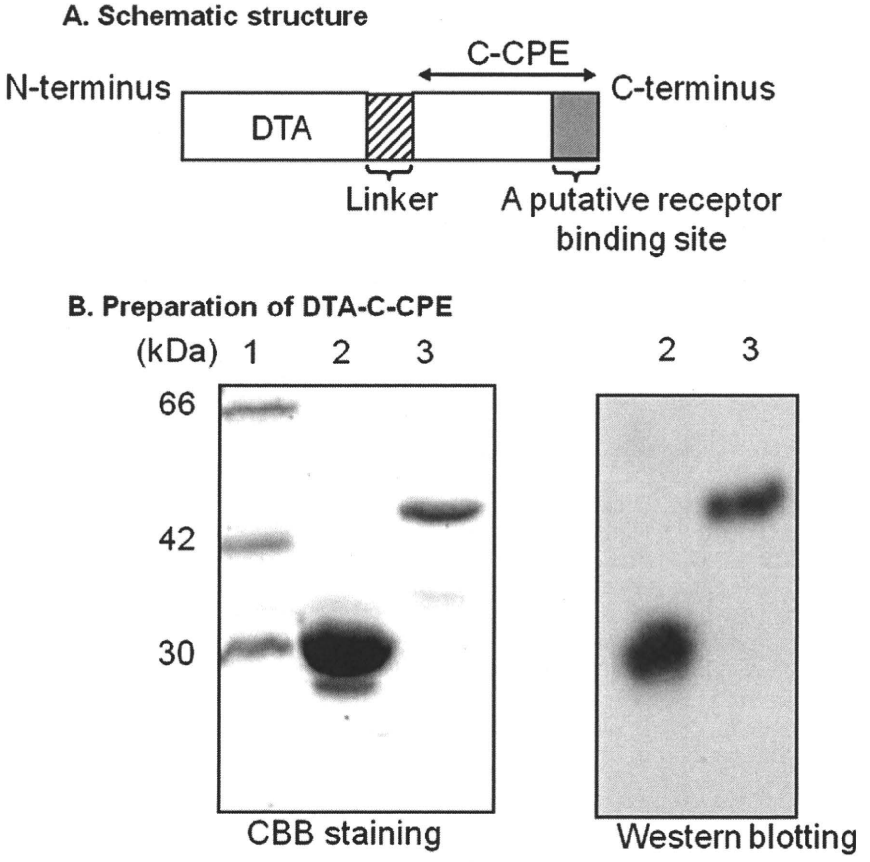


Fig. 1. Preparation of DTA–C-CPE. (A) Schematic structure of DTA–C-CPE. DTA–C-CPE is a fusion protein of DTA and C-CPE with a linker indicated by a slashed column. A dark column indicates a putative receptor-binding region of C-CPE. (B) Preparation of DTA–C-CPE. DTA or DTA–C-CPE was produced by a conventional expression system of *E. coli*, and the proteins were purified by His-tag affinity chromatography with Ni-resins. The purification of DTA–C-CPE was confirmed by SDS–PAGE followed by staining with Coomassie Brilliant Blue (CBB) (left panel in B) and by Western blotting using an anti-His-tag mAb (right panel in B). Lane 1, a marker of molecular size; lane 2, DTA; lane 3, DTA–C-CPE. The putative molecular sizes of DTA and DTA–C-CPE were 30 and 43.2 kDa, respectively.

The plasmid, pET–DTA-linker-C-CPE, was transduced into *Escherichia coli* strain BL21 (DE3), after which the cells were cultured in LB medium supplemented with 100 μg/ml ampicillin at 37 °C until the logarithmic phase. Isopropyl-D-thiogalactopyranoside (0.25 mM) was added to the medium, and the cells were cultured for an additional 3 h. The cells were harvested and then lysed in buffer A (10 mM Tris–HCl, pH 8.0, 400 mM NaCl, 5 mM $MgCl_2$, 0.1 mM phenylmethylsulfonyl fluoride, 1 mM 2-mercaptoethanol, and 10% glycerol). The lysates were centrifuged, and the resultant supernatant was applied to HiTrap Chelating HP (GE Healthcare, Little Chalfont, UK). DTA–C-CPE was eluted by buffer A containing imidazole. The solvent was exchanged with phosphate-buffered saline by using a PD-10 column (GE Healthcare), and the purified protein was stored at −80 °C until use. Purification of DTA–C-CPE was confirmed by sodium dodecylsulfate polyacrylamide gel electrophoresis, followed by staining with Coomassie Brilliant Blue and immunoblotting with anti-His-tag antibody. Protein was quantified by using a protein assay kit (Pierce Chemical, Rockford, IL) with BSA as a standard.

2.4. Cytotoxic activity

Cell viability was determined by using a tetrazolium-based colorimetric assay or lactate dehydrogenase (LDH) assay. Briefly, cells were seeded into a 96-well plate at 1×10^4 cells per well. On the following day, the cells were treated with DTA or DTA–C-CPE (0–20 μg/ml) for 48 h. In the colorimetric assay, WST-8 was added to the wells, mixed thoroughly and incubated for 1 h. Then, the absorbance was measured at 450 nm. In the LDH assay, the release of LDH from the cells was analyzed by using a CytoTox96 NonRadioactive Cytotoxicity Assay kit (Promega, Madison, WI), according to the manufacturer's protocol. The LDH release was calculated by using the following equation: percentage of maximal LDH release = LDH in the culture medium/total LDH in the culture dish.

2.5. Competition assay

Cells (1×10^4 cells) were pretreated with 0–40 μg/ml C-CPE or BSA for 2 h, and then 1 μg/ml of DTA–C-CPE was added. After an additional 48 h of culture, a colorimetric assay was performed as described previously.

3. Results

3.1. Preparation of DTA–C-CPE

When DTA enters the cytosol, it inhibits elongation factor 2 through ADP-ribosylation and induces the inhibition of protein synthesis, leading to cell death [20,22]. C-CPE is a receptor-binding domain of CPE, and the CL-4-binding region is located on the C-terminal of C-CPE [23]. To prepare a CL-4-targeting molecule, we genetically fused DTA with C-CPE at the N-terminal of C-CPE and C-terminal of DTA. A schematic illustration of DTA–C-CPE is shown in Fig. 1A. DTA–C-CPE was produced in *E. coli* and was purified by affinity chromatography with Ni-resins. The molecular size of DTA–C-CPE, as determined by SDS–PAGE and immunoblotting, was identical to its putative size (43.2 kDa, Fig. 1B).

3.2. Cytotoxic properties of DTA–C-CPE

To examine the cytotoxicity of DTA–C-CPE, we investigated the effects of DTA–C-CPE on CL-4-expressing L (CL4/L) cells. DTA had no effect on CL4/L cells at 20 μg/ml, whereas DTA–C-CPE dose-dependently decreased the viability, reaching 39.7% relative viability at 1 μg/ml (Fig. 2A). Similar results were observed in the LDH-release assay. As shown in Fig. 2B, 5 μg/ml of DTA did not cause a release of cellular LDH; but, DTA–C-CPE at 5 μg/ml significantly increased the release of cellular LDH from 4.7% to 25.0%.

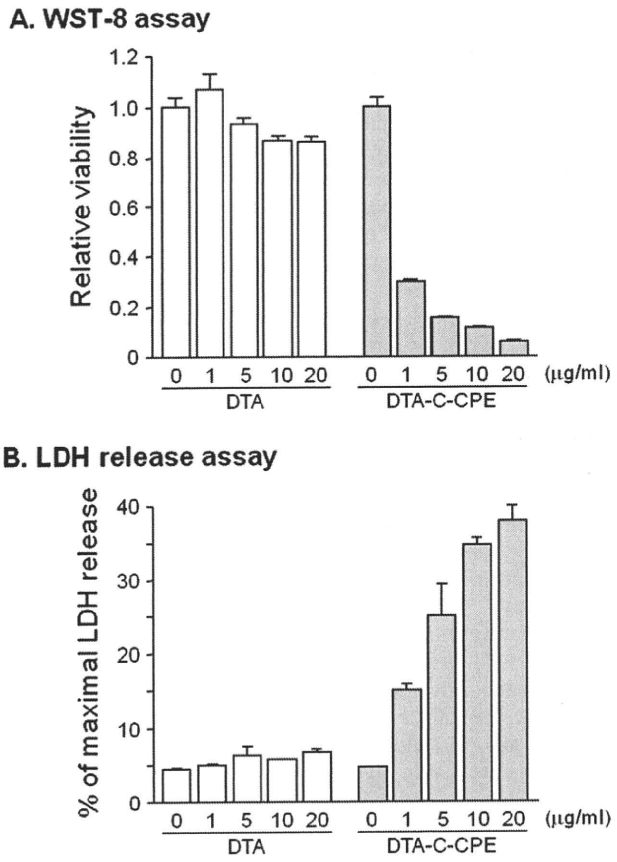


Fig. 2. Cytotoxicity of DTA–C-CPE. CL4/L cells were treated with DTA or DTA–C-CPE at the indicated concentration for 48 h. The cellular viability was measured by WST-8 assay (A) or LDH-release assay (B). Data are the mean ± SD ($n = 3$). The data are representative of three independent experiments.

3.3. Targeting properties of DTA–C-CPE

To confirm the CL specificity of DTA–C-CPE, we evaluated the cytotoxicity of DTA–C-CPE in L cells that expressed CL-1, -2, -4 or -5. DAT-C-CPE did not show severe cytotoxicity in L, CL1/L, CL2/L and CL5/L cells, even at 5 μg/ml, whereas DTA–C-CPE reduced the viability of CL4/L cells to 35.0% and 23.3% of the vehicle-treated cells at 1 and 5 μg/ml, respectively (Fig. 3A). To determine whether DTA–C-CPE bond to CL4/L cells via its C-CPE domain, we performed a competition assay. As shown in Fig. 3B, pretreatment of the cells with C-CPE dose-dependently attenuated the cytotoxic activity of DTA–C-CPE from 41.3% to 90.9% of viability at 0–40 μg/ml of C-CPE. In contrast, pretreatment of the cells with BSA at 40 μg/ml did not affect the cytotoxicity of DTA–C-CPE, indicating that DTA–C-CPE bound to the cells via its C-CPE domain. Thus, fusion of C-CPE gives a CL-4-targeting property to DTA, producing a CL-4-specific cytotoxic agent.

4. Discussion

CL-4 is often overexpressed in some malignant tumors, such as breast, prostate, ovarian, pancreatic and gastric cancers [12,14,17]. CL-4 targeting is a promising method for tumor-targeting therapy. In the present study, we prepared a fusion protein of DTA, a protein

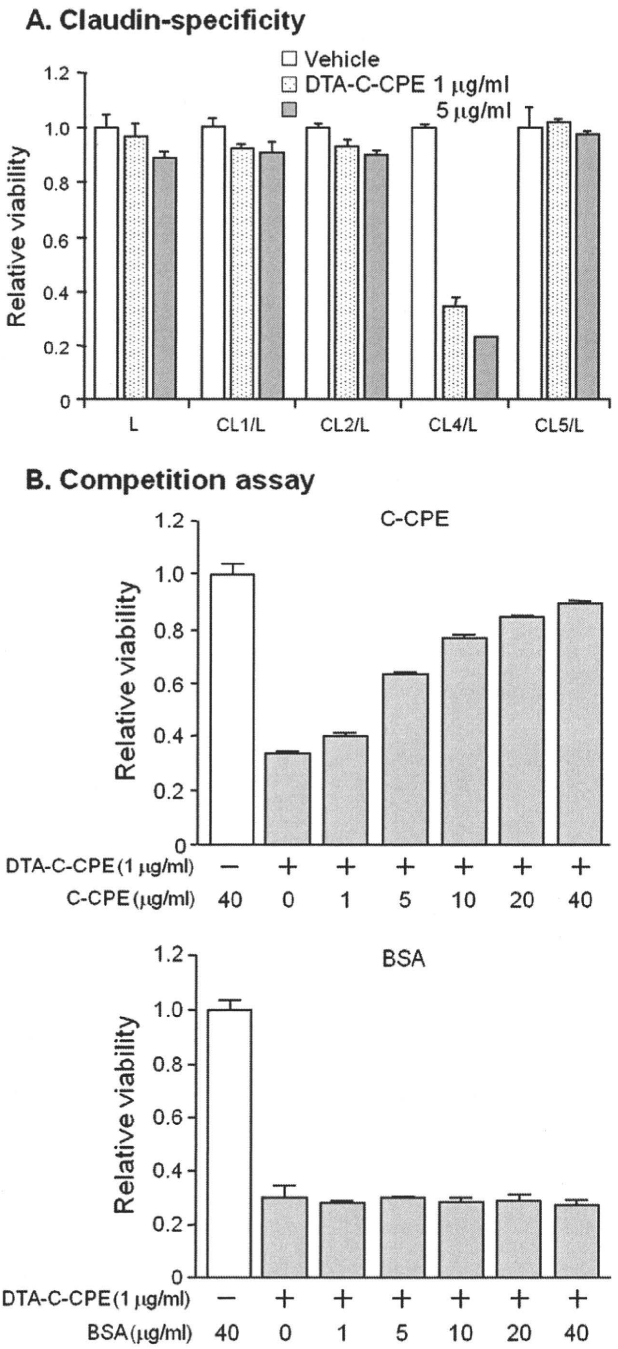


Fig. 3. Cytotoxic properties of DTA–C-CPE. (A) Claudin-specificity. L, CL1/L, CL2/L, CL4/L or CL5/L cells were treated with DTA–C-CPE at the indicated concentration for 48 h. After incubation, the cellular viability was measured by WST-8 assay. Data are the mean ± SD ($n = 3$). The data are representative of three independent experiments. (B) Competition assay. CL-4/L cells were pretreated with C-CPE (upper panel) or BSA (lower panel) at the indicated concentration for 2 h, and then the cells were treated with DAT-C-CPE (1 μg/ml) for 48 h. The cellular viability was measured by WST-8 assay. Data are the mean ± SD ($n = 3$). The data are representative of three independent experiments.

synthesis inhibitory factor, and C-CPE, which binds to CL-4, and we found that the fused protein (DTA–C-CPE) is toxic to CL-4-expressing cells.

DTA kills cells by inactivating elongation factor 2 when one molecule of this protein is introduced into the cytosol [24]. DTA permits the successful targeting of cells displaying only a limited number of tumor-specific growth factor receptors or antigens overexpressed on their surface, and immunotoxins containing DTA, ONTAK and DT 388GMCSF are used clinically for cancer-targeted therapy [25–27]. Therefore, we selected DTA as a cytotoxic molecule for the present study.

A CL-4-targeting molecule containing DTA needs to bind to CL-4 and enter the cytosol. C-CPE is the receptor-binding domain of CPE, and the CL-4-binding region is located on the C-terminal of C-CPE [15,23,28]. CL-4 has a sorting signal to clathrin-coated vehicles, and CL-4 is expected to be taken up by clathrin-mediated endocytosis [29–31]. CL-4 bound to DTA–C-CPE may be taken up by the endocytotic pathway, followed by release of DTA from endosomes into the cytosol. Further studies are needed to elucidate the detailed mechanism of DTA–C-CPE-induced cell death.

Reduced side effects and increased anti-tumor effects are pivotal characteristics needed for anti-tumor agents. Targeting cancer cells by using ligands for growth factor receptors or antigens that are overexpressed on the cell membrane is a potent strategy, and the success of the targeted therapy depends on the target molecule selection. The CL family has attractive characteristics for their use as targets in tumor therapy. First, CL has two extracellular loop domains that can be target sites [12]. Second, CLs are overexpressed in nine of 12 cancer types, creating a differential expression profile between tumor cells and normal cells [12,14]. Third, CLs are often exposed on the apical membrane in cancer cells, whereas CLs are located in the intercellular junction between adjacent cells in normal cells [14]. Even if the CL level in tumors is not more than the level in normal tissues, CL may be more accessible in the tumor. Thus, CLs have great promise as targets for tumor therapy. C-CPE is a CL ligand. We prepared C-CPE-PSIF, a lead compound for tumor therapy, by using the CL-4-targeting ligand C-CPE [32]. We already determined the functional domains of C-CPE as a CL-4-targeting molecule, and we are using C-CPE as a prototype to develop a novel CL ligand. This is the first study to produce CL-4-targeted DTA. Future development of the CL-4-targeting immunotoxin using DTA and a CL ligand will provide a novel tumor-targeted therapy.

Acknowledgements

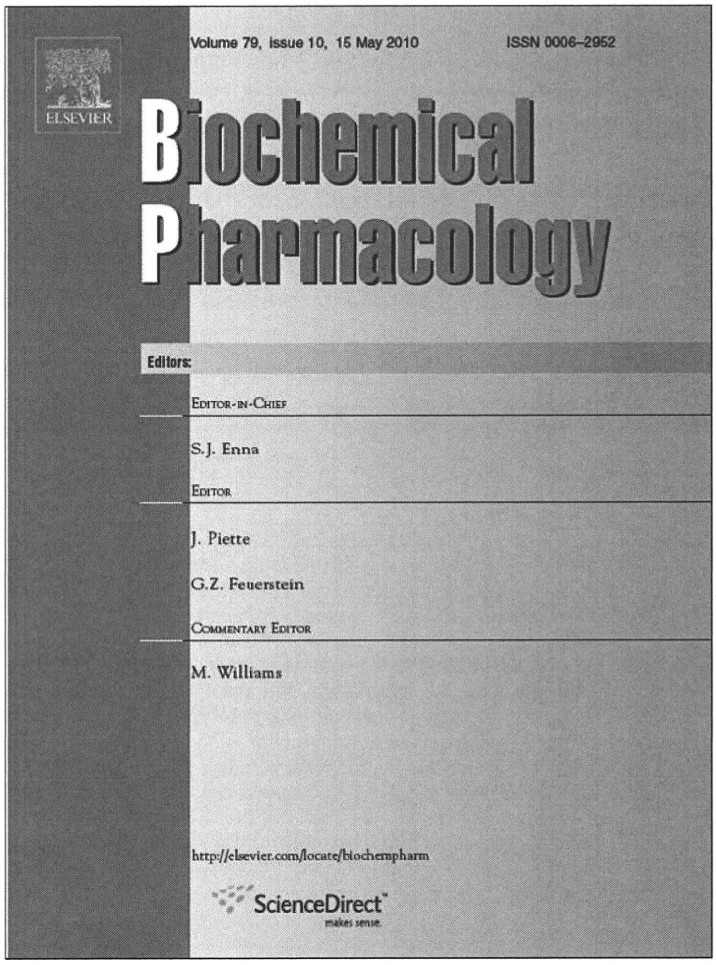
We thank Dr. Y. Horiguchi (Osaka University) and the members of our laboratory for providing us C-CPE cDNA and their useful comments and discussion, respectively. This work was supported by a Grant-in-Aid for Scientific Research from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan (21689006) and by Health and Labor Sciences Research Grants from the Ministry of Health, Labor, and Welfare of Japan.

References

[1] S. Marchini, M. D'Incalci, M. Broggini, New molecules and strategies in the field of anticancer agents, Curr. Med. Chem. Anticancer Agents 4 (2004) 247–262.
[2] D.A. Rew, G.D. Wilson, Cell production rates in human tissues and tumours and their significance. Part 1: an introduction to the techniques of measurement and their limitations, Eur. J. Surg. Oncol. 26 (2000) 227–238.
[3] S. Potala, S.K. Sahoo, R.S. Verma, Targeted therapy of cancer using *diphtheria* toxin-derived immunotoxins, Drug Discov. Today 13 (2008) 807–815.
[4] W.F. Benedict, M.S. Baker, L. Haroun, E. Choi, B.N. Ames, Mutagenicity of cancer chemotherapeutic agents in the Salmonella/microsome test, Cancer Res. 37 (1977) 2209–2213.
[5] W. Zumkeller, P.N. Schofield, Growth factors, cytokines and soluble forms of receptor molecules in cancer patients, Anticancer Res. 15 (1995) 343–348.
[6] R.J. Kreitman, I. Pastan, Immunotoxins in the treatment of hematologic malignancies, Curr. Drug Targets 7 (2006) 1301–1311.
[7] D.W. Powell, Barrier function of epithelia, Am. J. Physiol. 241 (1981) G275–G288.
[8] J.M. Mullin, Potential interplay between luminal growth factors and increased tight junction permeability in epithelial carcinogenesis, J. Exp. Zool. 279 (1997) 484–489.
[9] A. Martinez-Palomo, Ultrastructural modifications of intercellular junctions between tumor cells, In Vitro 6 (1970) 15–20.
[10] J.G. Swift, T.M. Mukherjee, R. Rowland, Intercellular junctions in hepatocellular carcinoma, J. Submicrosc. Cytol. 15 (1983) 799–810.

[11] P.D. Vermeer, L.A. Einwalter, T.O. Moninger, T. Rokhlina, J.A. Kern, J. Zabner, M.J. Welsh, Segregation of receptor and ligand regulates activation of epithelial growth factor receptor, Nature 422 (2003) 322–326.
[12] P.J. Morin, Claudin proteins in human cancer: promising new targets for diagnosis and therapy, Cancer Res. 65 (2005) 9603–9606.
[13] M. Furuse, S. Tsukita, Claudins in occluding junctions of humans and flies, Trends Cell Biol. 16 (2006) 181–188.
[14] S.L. Kominsky, Claudins: emerging targets for cancer therapy, Expert Rev. Mol. Med. 8 (2006) 1–11.
[15] J. Katahira, N. Inoue, Y. Horiguchi, M. Matsuda, N. Sugimoto, Molecular cloning and functional characterization of the receptor for *Clostridium perfringens* enterotoxin, J. Cell Biol. 136 (1997) 1239–1247.
[16] S.L. Kominsky, M. Vali, D. Korz, T.G. Gabig, S.A. Weitzman, P. Argani, S. Sukumar, *Clostridium perfringens* enterotoxin elicits rapid and specific cytolysis of breast carcinoma cells mediated through tight junction proteins claudin 3 and 4, Am. J. Pathol. 164 (2004) 1627–1633.
[17] A.D. Santin, S. Cane, S. Bellone, M. Palmieri, E.R. Siegel, M. Thomas, J.J. Roman, A. Burnett, M.J. Cannon, S. Pecorelli, Treatment of chemotherapy-resistant human ovarian cancer xenografts in C.B-17/SCID mice by intraperitoneal administration of *Clostridium perfringens* enterotoxin, Cancer Res. 65 (2005) 4334–4342.
[18] P. Michl, M. Buchholz, M. Rolke, S. Kunsch, M. Lohr, B. McClane, S. Tsukita, G. Leder, G. Adler, T.M. Gress, Claudin-4: a new target for pancreatic cancer treatment using *Clostridium perfringens* enterotoxin, Gastroenterology 121 (2001) 678–684.
[19] N. Sonoda, M. Furuse, H. Sasaki, S. Yonemura, J. Katahira, Y. Horiguchi, S. Tsukita, *Clostridium perfringens* enterotoxin fragment removes specific claudins from tight junction strands: Evidence for direct involvement of claudins in tight junction barrier, J. Cell Biol. 147 (1999) 195–204.
[20] R.J. Collier, *Diphtheria* toxin: mode of action and structure, Bacteriol. Rev. 39 (1975) 54–85.
[21] D. Leong, K.D. Coleman, J.R. Murphy, Cloned fragment A of *diphtheria* toxin is expressed and secreted into the periplasmic space of *Escherichia coli* K12, Science 220 (1983) 515–517.
[22] P.O. Falnes, K. Sandvig, Penetration of protein toxins into cells, Curr. Opin. Cell Biol. 12 (2000) 407–413.
[23] P.C. Hanna, T.A. Mietzner, G.K. Schoolnik, B.A. McClane, Localization of the receptor-binding region of *Clostridium perfringens* enterotoxin utilizing cloned toxin fragments and synthetic peptides. The 30 C-terminal amino acids define a functional binding region, J. Biol. Chem. 266 (1991) 11037–11043.
[24] M. Yamaizumi, E. Mekada, T. Uchida, Y. Okada, One molecule of *diphtheria* toxin fragment A introduced into a cell can kill the cell, Cell 15 (1978) 245–250.
[25] F. Foss, Clinical experience with denileukin diftitox (ONTAK), Semin. Oncol. 33 (2006) S11–S16.
[26] A.E. Frankel, D.R. Fleming, P.D. Hall, B.L. Powell, J.H. Black, C. Leftwich, R. Gartenhaus, A phase II study of DT fusion protein denileukin diftitox in patients with fludarabine-refractory chronic lymphocytic leukemia, Clin. Cancer Res. 9 (2003) 3555–3561.
[27] A.E. Frankel, B.L. Powell, P.D. Hall, L.D. Case, R.J. Kreitman, Phase I trial of a novel *diphtheria* toxin/granulocyte macrophage colony-stimulating factor fusion protein (DT 388GMCSF) for refractory or relapsed acute myeloid leukemia, Clin. Cancer Res. 8 (2002) 1004–1013.
[28] A. Takahashi, M. Kondoh, A. Masuyama, M. Fujii, H. Mizuguchi, Y. Horiguchi, Y. Watanabe, Role of C-terminal regions of the C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin in its interaction with claudin-4, J. Control. Release 108 (2005) 56–62.
[29] J.S. Bonifacino, L.M. Traub, Signals for sorting of transmembrane proteins to endosomes and lysosomes, Annu. Rev. Biochem. 72 (2003) 395–447.
[30] A.I. Ivanov, A. Nusrat, C.A. Parkos, Endocytosis of epithelial apical junctional proteins by a clathrin-mediated pathway into a unique storage compartment, Mol. Biol. Cell 15 (2004) 176–188.
[31] M. Matsuda, A. Kubo, M. Furuse, S. Tsukita, A peculiar internalization of claudins, tight junction-specific adhesion molecules, during the intercellular movement of epithelial cells, J. Cell Sci. 117 (2004) 1247–1257.
[32] C. Ebihara, M. Kondoh, N. Hasuike, M. Harada, H. Mizuguchi, Y. Horiguchi, M. Fujii, Y. Watanabe, Preparation of a claudin-targeting molecule using a C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin, J. Pharmacol. Exp. Ther. 316 (2006) 255–260.

Provided for non-commercial research and education use.
Not for reproduction, distribution or commercial use.



This article appeared in a journal published by Elsevier. The attached copy is furnished to the author for internal non-commercial research and education use, including for instruction at the authors institution and sharing with colleagues.

Other uses, including reproduction and distribution, or selling or licensing copies, or posting to personal, institutional or third party websites are prohibited.

In most cases authors are permitted to post their version of the article (e.g. in Word or Tex form) to their personal website or institutional repository. Authors requiring further information regarding Elsevier's archiving and manuscript policies are encouraged to visit:

http://www.elsevier.com/copyright

Author's personal copy

Biochemical Pharmacology 79 (2010) 1437–1444

Contents lists available at ScienceDirect

Biochemical Pharmacology

journal homepage: www.elsevier.com/locate/biochempharm

A claudin-4 modulator enhances the mucosal absorption of a biologically active peptide

Hiroshi Uchida [a,*], Masuo Kondoh [b,**], Takeshi Hanada [a], Azusa Takahashi [b], Takao Hamakubo [c], Kiyohito Yagi [b]

[a] Department of Biopharmaceuticals Research, Biopharma Center, Asubio Pharma Co., Ltd., Gunma, Japan
[b] Laboratory of Bio-Functional Molecular Chemistry, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University, Osaka, Japan
[c] Department of Molecular Biology and Medicine, Research Center for Advanced Science and Technology, The University of Tokyo, Tokyo, Japan

ARTICLE INFO

Article history:
Received 21 December 2009
Accepted 12 January 2010

Keywords:
Mucosal absorption
Claudin
Paracellular route
Tight junction
Epithelial barrier

ABSTRACT

Biologics, such as peptides, proteins and nucleic acids, are emerging pharmaceuticals. Passage across the epithelium is the first step in the absorption of biologics. Tight junctions (TJ) function as seals between adjacent epithelial cells, preventing free movement of solutes across the epithelium. We previously found that modulation of a key TJ component, claudin-4, is a potent method to enhance jejunal absorption when we used dextran as a model drug and the C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin (C-CPE) as a claudin-4 modulator. Here, we investigated whether the claudin-4 modulator enhances jejunal, nasal and pulmonary absorption of a biologics human parathyroid hormone derivative, hPTH(1-34). The claudin-4 modulator enhanced nasal but not jejunal and pulmonary absorption of hPTH(1-34). C-CPE is hydrophobic with low solubility of less than 0.3 mg/ml, but deletion of 10 amino acids at the N-terminal of C-CPE increased its solubility by 30-fold. Moreover, the N-terminal truncated C-CPE bound to claudin-4, modulated the TJ-barrier and enhanced jejunal absorption of dextran. The N-terminal-truncated C-CPE also enhanced jejunal and pulmonary absorption of hPTH(1-34). This report is the first to indicate that a claudin-4 modulator may be a promising enhancer of the jejunal, pulmonary and nasal absorption of a peptide drug.

© 2010 Elsevier Inc. All rights reserved.

1. Introduction

Recent progress in genomic and proteomic technologies has yielded some new biologics, such as peptides, proteins and nucleic acids, as pharmaceutical candidates. Passage across the mucosal epithelium of the intestine, nose and lung is the first step in drug absorption. However, most biologics are hydrophilic molecules that are poorly absorbed by the mucosa. Although injection is a compelling route for the administration of biologics, a transmucosal delivery system would be an ideal administration route for biologics because it is noninvasive and therefore would provide a higher quality of life to patients. However, it is difficult to develop a transmucosal delivery system since the epithelium plays a pivotal role in the barrier separating the inside of the body from the outside environment.

Tight junctions (TJ) exist between adjacent epithelial cells and seal the paracellular space, preventing free movement of solutes [1]. To facilitate drug absorption, modulators of the epithelial barrier have been investigated since 1960s [2,3]. Many TJ modulators, such as fatty acids, bile salts, a polysaccharide and a toxin fragment, have been developed [4–6]. However, the biochemical structures of TJs remained uncharacterized until 1998, and a drug absorption enhancer based on TJ-components has never been fully developed [7]. Occludin, a 65-kDa tetra-transmembrane protein, was the first TJ-structural component to be identified [8]. Claudin, a 23-kDa integral membrane protein bearing tetra-transmembrane domains, is the functional component of the TJ-barrier [9,10]. The claudin family consists of 24

Abbreviations: TJ, tight junction; C-CPE, the C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin; C-CPE184, C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin from 184 to 319 amino acids; hPTH, human parathyroid hormone; CPE, *Clostridium perfringens* enterotoxin; DDM, n-Dodecyl-β-D-maltoside; EDC, N-ethyl-N′-(3-dimethylaminopropyl)-carbodiimide; NHS, N-hydroxysuccinimide; C-CPE194, C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin from 194 to 319 amino acids; C-CPE205, C-terminal fragment of *Clostridium perfringens* enterotoxin from 205 to 319 amino acids; PBS, phosphate-buffered saline; SDS-PAGE, sodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresis; BV, budded baculovirus; TBS, Tris-buffered saline; ELISA, enzyme-linked immunosorbent assay; SPR, surface plasmon resonance; TEER, transepithelial electric resistance; FD-4, fluorescein isothiocyanate-dextran with a molecular weight of 4 kDa; AUC, the area under the plasma concentration; BA, bioavailability.

* Corresponding author at: Department of Biopharmaceuticals Research, Biopharma Center, Asubio Pharma Co., Ltd., Gunma 370-0503, Japan. Tel.: +81 276 86 7359; fax: +81 276 86 5787.
** Corresponding author at: Laboratory of Bio-Functional Molecular Chemistry, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University, Suita, Osaka 565-0871, Japan. Tel.: +81 6 6879 8196; fax: +81 6 6879 8199.
E-mail addresses: uchida.hiroshi.b3@asubio.co.jp (H. Uchida), masuo@phs.osaka-u.ac.jp (M. Kondoh).

0006-2952/$ – see front matter © 2010 Elsevier Inc. All rights reserved.
doi:10.1016/j.bcp.2010.01.010

Author's personal copy

members with different barrier functions among tissues. For example, claudin-1 and -5 function in the epidermal barrier and blood-brain barrier, respectively [11,12]. Claudin is heterogeneously expressed in epithelial cells of the gut, lung and nose [13–15]. The extracellular loop domains of claudin between adjacent cells are estimated to be involved in the paracellular tightness of the cleft between cells, resulting in prevention of solute movement by the formation of TJs [16,17]. Therefore, a molecule that can bind to the extracellular loop domain of claudin may be a novel type of mucosal-absorption enhancer.

The 35-kDa *Clostridium perfringens* enterotoxin (CPE) causes food poisoning in humans [18]. The receptor for CPE is claudin-4 [10]. The C-terminal fragment of CPE (amino acids 184–319; C-CPE184) is the receptor-binding region of CPE. Treatment of cells with C-CPE184 disrupted the TJ-barrier through its interaction with the second extracellular loop of claudin-4, indicating that C-CPE184 is a claudin-4 modulator [10,19,20]. We previously found that C-CPE184 enhanced the jejunal absorption of dextran (molecular mass, 4 kDa) over 400-fold compared with a clinically used absorption enhancer, sodium caprate, and that deletion of the claudin-4-binding region in C-CPE attenuated the absorption-enhancing effect of C-CPE [21]. Claudin-4 is also expressed in nasal and pulmonary epithelial cells [14,15,22]. Thus, a claudin-4 modulator may be a promising candidate for the enhancement of not only jejunal absorption but also pulmonary and nasal absorption of biologics; however, the ability of a claudin modulator to enhance the mucosal absorption of biologics has not yet been investigated.

In the present study, we investigated whether claudin-4 modulation enhanced jejunal, nasal and pulmonary absorption of a peptide drug, human parathyroid hormone derivative (hPTH(1-34)) using C-CPE184 and its derivatives. We found that a claudin-4 modulator was a novel mucosal-absorption enhancer of a peptide drug.

2. Materials and methods

2.1. Materials

Human parathyroid hormone derivative (hPTH(1-34)) was prepared as described previously [23]. n-Dodecyl-β-D-maltoside (DDM) was purchased from Dojindo Laboratories (Kumamoto, Japan). Anti-claudin antibodies and anti-his-tag antibody were obtained from Invitrogen (Carlsbad, CA) and EMD Chemicals Inc. (Darmstadt, Germany), respectively. CM5 sensor chips, amine-coupling reagents (N-ethyl-N′-(3-dimethylaminopropyl)-carbodiimide (EDC), N-hydroxysuccinimide (NHS), and ethanolamine–HCl) and HBS-EP+ (10 mM HEPES, pH 7.4, 150 mM NaCl, 3 mM EDTA and 0.05% surfactant P20) were obtained from GE Healthcare (Buckinghamshire, UK). All reagents used were of research grade.

2.2. Preparation of N-terminal-truncated C-CPE derivatives

We prepared expression vectors of N-terminal region-truncated C-CPE184 (amino acids 184–319). These vectors expressed amino acids 194–319 (C-CPE194), 205–319 (C-CPE205), 212–319 (C-CPE212), 219–319 (C-CPE219) and 224–319 (C-CPE224). Insert fragments of each C-CPE mutant were amplified from C-CPE184 cDNA (kindly provided by Dr. Y. Horiguchi, Osaka University) by polymerase chain reaction with forward primers (5′-ATGCTCGAGGATATAGAAAAAGAAATCCTT-3′ for C-CPE194, 5′-ATGCTCGAGGCTACAGAAAGATTAAATTTAACTG-3′ for C-CPE205, 5′-ATGGGGGAGGCTACAGAAAGATTAAATTTAACTG-3′ for C-CPE212, 5′-ATGCTCGAGGCTGAAGCCCAAGATTAAATTTAACTG-3′ for C-CPE219, 5′-ATGCTCGATCTATGAAGATTAAATTTAACTG-3′ for C-CPE224) and a common reverse primer (5′-TTTGCTAGCTAAGATTCTATATTTTTGTCC-3′). The resultant C-CPE fragments were cloned into the pET16b vector. The plasmids were transduced into *E. coli* BL21 (DE3), and protein expression was stimulated by the addition of isopropyl-1-thio-β-D-galactoside. The cell lysates were applied to HisTrap™ HP (GE Healthcare), and C-CPEs were eluted with imidazole. The solvent was exchanged with phosphate-buffered saline (PBS) by gel filtration, and the purified proteins were stored at −80 °C until use. Purification of the proteins was confirmed by sodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresis (SDS-PAGE) followed by staining with Coomassie Brilliant Blue. C-CPEs were quantified by using a BCA protein assay kit (Thermo Fisher Scientific Inc., Rockford, IL) with bovine serum albumin as a standard.

2.3. Preparation of claudin-displaying budded baculovirus (BV)

Claudin-displaying BV was prepared as described previously [24]. Briefly, mouse claudin-1 and -4 cDNA fragments were cloned into the baculoviral transfer vector pFastBac1 (Invitrogen). Recombinant baculoviruses were generated by using the Bac-to-Bac system according to the manufacturer's instructions (Invitrogen). Sf9 cells were cultured in Grace's Insect medium (Invitrogen) containing 10% FBS at 27 °C and infected with the recombinant baculovirus. Seventy-two hours after infection, the BV fraction was isolated from the culture supernatant of the infected Sf9 cells by centrifugation at 40,000 × *g* for 25 min. The pellets of the BV fraction were suspended in Tris-buffered saline (TBS) containing protease inhibitor cocktail (Sigma–Aldrich, St. Louis, MI) and then stored at 4 °C. The expression of claudins in the BV fraction was confirmed by SDS-PAGE and immunoblot with antibodies against claudins.

2.4. Enzyme-linked immunosorbent assay (ELISA) with claudin-displaying BV

The claudin-displaying BV were diluted with TBS and adsorbed to the wells of 96-well immunoplates (Nunc, Roskilde, Denmark) overnight at 4 °C. The wells were washed with PBS and blocked with TBS containing 1.6% BlockAce (Dainippon Sumitomo Pharma, Osaka, Japan) for 2 h at room temperature. C-CPE or C-CPE derivatives were added to the wells and incubated for an additional 2 h at room temperature. The wells were washed with PBS and incubated with anti-his-tag antibody for 2 h at room temperature. The immuno-reactive proteins were detected by a horseradish peroxidase-labeled secondary antibody with 3,3′,5,5′-tetramethylbenzine as a substrate. The reaction was terminated by the addition of 0.5 M H_2SO_4, and the immuno-reactive proteins were measured at 450 nm.

2.5. Preparation of recombinant claudin-4 protein

Recombinant claudin-4 protein was prepared by using Sf9 cells infected with recombinant baculovirus, as previously reported [25,26]. Briefly, the C-terminal his-tagged claudin-4 cDNA fragment was cloned into pFastBac1, and recombinant baculovirus was generated by using the Bac-to-Bac baculovirus expression system. Sf9 cells were infected with the recombinant baculovirus. After 52–56 h of infection, the cells were harvested by centrifugation. The cells were washed with PBS and were resuspended in 10 mM Hepes, pH 7.4, 120 mM NaCl with protease inhibitor tablets (Complete Mini, EDTA-free, Roche Applied Science (Indianapolis, IN)), 1 mM phenylmethylsulfonyl fluoride and 20 units/ml DNase I. The cells were lysed by the addition of 2% of DDM and were then centrifuged. The resultant supernatant was applied to HisTrap™ HP, and claudin-4 was eluted with imidazole. The solvent for claudin-4 was exchanged to PBS containing 0.2% DDM by gel

Author's personal copy

filtration with a HiTrap Desalting column (GE Healthcare). Purification of claudin-4 was confirmed by SDS-PAGE followed by staining with Coomassie Brilliant Blue.

2.6. Surface plasmon resonance (SPR) analysis

SPR measurements were performed with a Biacore T100 instrument (GE Healthcare). Amine-coupling chemistry was used to immobilize claudin-4 at 25 °C on a CM5 sensor chip surface docked in a Biacore T100 and equilibrated with HBS-EP+. The carboxymethyl surface of the CM5 chip was activated for 2 min with a 1:1 ratio of 0.4 M EDC and 0.1 M NHS at a flow rate of 10 μl/min. Claudin-4 was diluted to 2.5 μg/ml in 10 mM MES buffer (pH 6.5) and injected for 2 min over the surface at a flow rate of 10 μl/min. Excess activated groups were blocked by a 5-min injection of 1 M ethanolamine (pH 8.5) at a flow rate of 10 μl/min. Approximately 1000 RU of claudin-4 was immobilized by using this protocol. Single-cycle kinetics experiments were performed at 25 °C with a flow rate of 30 μl/min [27]. C-CPE or its derivatives were serially diluted (1.25, 2.5, 5, 10 and 20 nM) in running buffer (HBS-EP+). Within a single binding cycle, samples of C-CPE or its derivatives were injected sequentially in order of increasing concentration over both the ligand and the reference surfaces. The reference surface, an unmodified flowcell, was used to correct for systematic noise and instrumental drift. Also, prior to the binding cycle for C-CPE or its derivatives, buffer was injected. These "blank" responses were used as a double-reference for the binding data [28]. The sensorgrams were globally fitted by using a 1:1 binding model to determine k_a, k_d and K_D values with the Biacore T100 Evaluation Software version 2.0.1.

2.7. Transepithelial electric resistance (TEER) assay

Caco-2 cells were seeded onto BD BioCoat™ Fibrillar Collagen Cell culture inserts (BD Biosciences, San Jose, CA) at a density of 1×10^5 cells/insert and cultured for 5 days. TJ barriers were formed by a 3-day culture in Entero-STIM™ (BD Biosciences) medium for cellular differentiation. C-CPE or its derivatives were added to the apical side of the chamber. After 18 h of incubation, the TEER values were measured with a Millicell-ERS epithelial volt-ohmmeter (Millipore, Billerica, MA). The percentage changes of TEER values were calculated by the ratio to TEER value in 100 μg/ml of C-CPE184. EC50 values, at which the TEER ratio is 50%, were calculated by using the four-parameter logistic function of DeltaSoft version 3 (BioMetallics, Princeton, NJ) from dose–response curves of the TEER ratio.

2.8. In situ loop assay

Jejunal absorption of hPTH(1-34) or fluorescein isothiocyanate-dextran with a molecular mass of 4 kDa (FD-4) was evaluated by using an in situ loop assay as described previously [21]. The experiments were performed according to the guidelines of the ethics committee of Osaka University or Asubio Pharma Co. Ltd. After 7-week-old Wister male rats were anesthetized with pentobarbital, a midline abdominal incision was made, and the jejunum was washed with PBS. A 5-cm long jejunal loop was prepared by closing both ends with sutures. hPTH(1-34) (100 μg) was co-administered with C-CPEs into the loop or administered 4 h after the administration of C-CPEs. Blood was collected from the femoral artery by using a cannulated polyethylene tube at the indicated time points. EDTA (1 mg/ml) was immediately added to the blood sample, and the plasma was recovered by centrifugation. To avoid degradation of hPTH(1-34), aprotinin (500 IU/ml) was immediately added to the plasma, and the plasma was stored at −80 °C until use. The plasma hPTH(1-34) was quantified by radioimmunoassay (RIA) with anti-hPTH antibody. Anti-hPTH antibody was added to the plasma and then incubated with [^{125}I-Tyr34] hPTH(1-34) (15,000–20,000 cpm/100 μl) for 24 h. The anti-rabbit IgG goat antibody was added, and anti-hPTH antibody bound to the anti-rabbit IgG goat antibody was separated by centrifugation. The radioactivity in the sediment was counted with a gamma counter (PerkinElmer Inc., Waltham, MA). The area under the plasma concentration time curve (AUC) from 0 to 120 min after administration was calculated by the trapezoidal method. Relative bioavailability (BA) was calculated with the following equation: BA (%) = (AUC (ng·min/ml)/dose (μg/kg))/(AUC (iv)(ng·min/ml)/dose (iv) (μg/kg)). AUC (iv) indicates the $AUC_{0-120\ min}$ of intravenously administered hPTH(1-34) (10 μg/kg), and the AUC value is 208.6 ± 52.7 ng·min/ml.

Rats were anesthetized with thiamylal sodium, and a jejunal loop was made, as described above. A mixture of FD-4 (2 mg) and C-CPEs was co-administered into the jejunal loop. Blood was collected from the jugular vein at the indicated time points. The plasma levels of FD-4 were measured with a fluorescence spectrophotometer (Fluoroskan Ascent FL; ThermoElectron Corporation, Waltham, MA). The AUC of FD-4 from 0 to 6 h ($AUC_{0-6\ h}$) was calculated by the trapezoidal method.

2.9. Nasal and pulmonary absorption assay

Nasal and pulmonary absorption of hPTH(1-34) was examined in 7-week-old Sprague–Dawley male rats. The experiments were performed according to the guidelines of the ethics committee of Asubio Pharma Co. Ltd. For the nasal absorption assay, 200 μg of hPTH(1-34) was intranasally administered to both sides of the nasal cavity 0 or 4 h after nasal administration of C-CPEs. The total injection volume did not exceed 20 μl. For the pulmonary absorption assay, a polyethylene tube (PE-240, Clay Adams, Becton Dickinson & Co., Sparks, MD) was inserted into the trachea of each rat. A MicroSprayer (Penn-Century, Inc., Philadelphia, PA) was used to perform pulmonary injections of C-CPEs; then, after 0 or 4 h, 150 μg of hPTH(1-34) was administered with the MicroSprayer. Blood was collected at the indicated time points, and the plasma concentration of hPTH(1-34) was measured by RIA, as described above. AUC and BA (%) values were calculated, as described above.

2.10. Statistical analysis

Data were analyzed by using analysis of variance (ANOVA) followed by Dunnett's multiple comparison test, and statistical significance was assigned at $p < 0.05$.

3. Results

3.1. Effects of C-CPE on jejunal, nasal and pulmonary absorption of a peptide drug

We previously found that a claudin-4 modulator, C-CPE184, is a novel type of absorption enhancer by using dextran as a model drug [21]. In the present study, we investigated whether the claudin-4 modulator enhances jejunal, nasal and pulmonary absorption of a peptide drug, hPTH(1-34). When hPTH(1-34) was administered with C-CPE184, C-CPE184 enhanced nasal absorption of hPTH(1-34) by 2.5-fold as compared to the vehicle-treated group. However, C-CPE184 did not enhance jejunal and pulmonary absorption of hPTH(1-34) (Fig. 1 and Table 1). Next, we examined whether pre-treatment of mucosa with C-CPE184 enhanced absorption of hPTH(1-34). When hPTH(1-34) was administered after 4 h of treatment with C-CPE184, the jejunal, nasal and pulmonary absorption of hPTH(1-34) was significantly

Author's personal copy

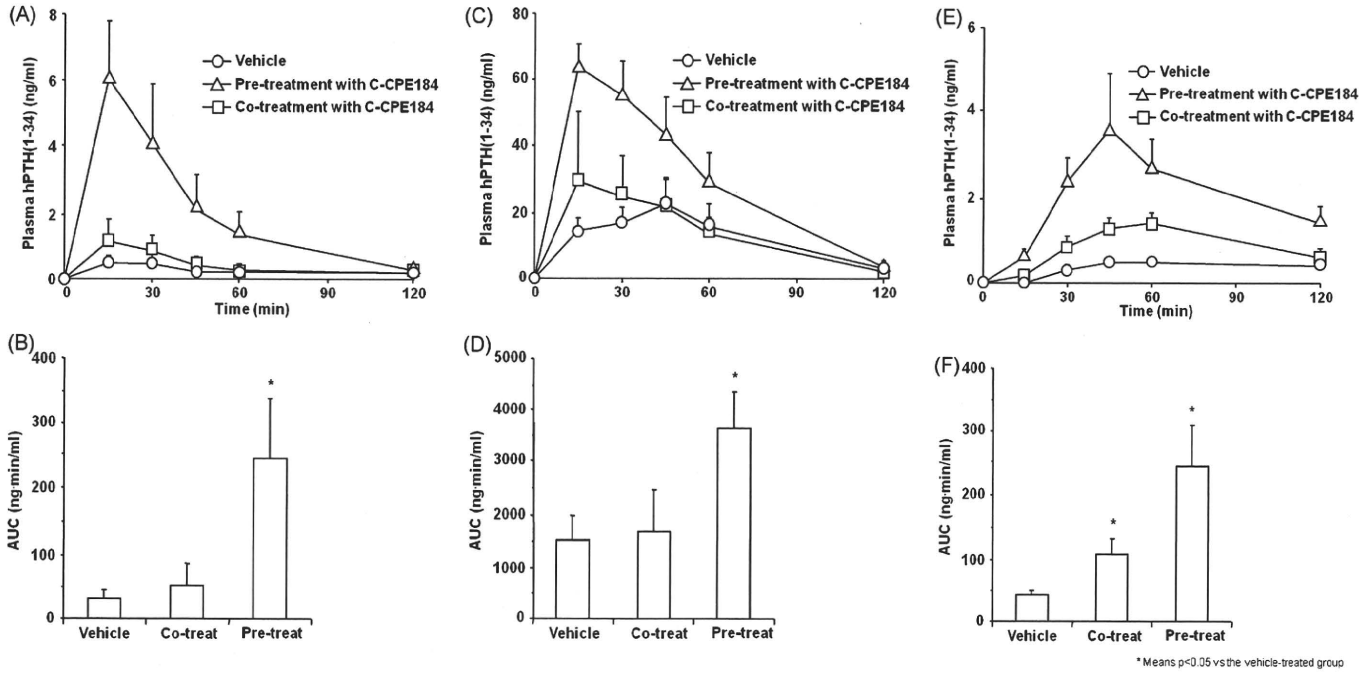


Fig. 1. Effect of C-CPE184 on mucosal absorption of hPTH(1-34) in rats. (A, B) Jejunal absorption of hPTH(1-34). Jejunum was co-treated with hPTH(1-34) (100 μg) and C-CPE184 (20 μg), or jejunum was treated with hPTH(1-34) 4 h after treatment with C-CPE184. (C, D) Pulmonary absorption of hPTH(1-34). hPTH(1-34) (150 μg) was pulmonary administered with C-CPE184 (5 μg) or 4 h after administration of C-CPE184. (E, F) Nasal absorption of hPTH(1-34). hPTH(1-34) (200 μg) was nasally administered with C-CPE184 (2 μg) or 4 h after administration of C-CPE184. Plasma hPTH(1-34) levels were measured at the indicated periods. Time-course changes in plasma hPTH(1-34) levels (A, C, E) and AUC from 0 to 120 min (B, D, F) were calculated. Data are mean ± SE (n = 3-6). Co-treat indicates co-treatment with both hPTH and C-CPE184, and Pre-treat indicates treatment with hPTH 4 h after C-CPE184-treatment. *Significantly different from the vehicle-treated group ($p < 0.05$).

Table 1
Parameters of mucosal absorption of hPTH(1-34) in C-CPE184-treated rats.

Treatments	Jejunum		Nasal		Pulmonary	
	Cmax (ng/ml)	BA (%)[a]	Cmax (ng ml)	BA (%)	Cmax (ng ml)	BA (%)
Vehicle	0.9 ± 0.3	0.4 ± 0.2	0.7 ± 0.1	0.3 ± 0.0	27.8 ± 6.5	14.6 ± 4.4
Co-treat	1.2 ± 0.6	0.6 ± 0.4	1.5 ± 0.2*	0.8 ± 0.2*	35.2 ± 18.9	14.9 ± 6.5
Pre-treat	6.0 ± 1.8*	2.7 ± 0.9*	3.6 ± 1.3	1.4 ± 0.4*	67.6 ± 7.5**	34.5 ± 6.6*

[a] BA (%) = (AUC/Dose)/(AUC iv/Dose iv).
Data are means ± SE.
*$p < 0.05$, **$p < 0.01$, as compared to vehicle-treated group.

increased 7.5-, 5.6- and 2.4-fold compared to the vehicle-treated group (Fig. 1 and Table 1).

3.2. Preparation of N-terminal-truncated C-CPE184-319 derivatives

The solubility of C-CPE184 is less than 0.3 mg/ml in PBS due to its hydrophobicity (Table 2). An increase in solubility without loss of claudin-4-modulating activity might improve the mucosal-absorption-enhancing activity of C-CPE184. Van Itallie et al. showed that the removal of the 10 N-terminal amino acids from C-CPE184 to yield C-CPE194 results in high solubility (10 mg/ml)

Table 2
Solubility of C-CPE184 and the N-terminal-truncated mutants.

Derivatives	Molecular size (kDa)	Solubility[a] (mg/ml)
C-CPE184	18.2	<0.3
C-CPE194	17.3	>10
C-CPE205	16.1	>4
C-CPE212	15.4	Insol.[b]
C-CPE219	14.7	Insol.
C-CPE224	14.2	Insol.

[a] Solvent is PBS.
[b] Insol., insoluble.

[26]. Although C-CPE194 is a claudin-4 binder, whether C-CPE194 modulates the TJ-barrier remains unclear. C-CPE194 contains nine β-sheets and one α-helix, and its 16 C-terminal amino acids are believed to comprise the claudin-4-binding region (Fig. 2A) [26,29]. Based on this information, we prepared five different N-terminal-truncated C-CPE184 derivatives: C-CPE194, which lacks the 10 N-terminal amino acids; C-CPE205, which is truncated prior to the β1-sheet; C-CPE212, which is truncated after the β1-sheet; C-CPE219, which is truncated after the α-helix; and C-CPE224, which is truncated before the β2-sheet (Fig. 2A). The C-CPEs were expressed in *E. coli* (Fig. 2B). The solubility of C-CPE194 (>10 mg/ml) and C-CPE205 (>4 mg/ml) in PBS was greater than that of C-CPE184 (<0.3 mg/ml) (Table 2). However, C-CPE212, C-CPE219 and C-CPE224 formed solid inclusion bodies in *E. coli*, and these inclusion bodies could not be dissolved without 2 M urea. Therefore, further experiments were performed with C-CPE184, C-CPE194 and C-CPE205.

3.3. Characterization of C-CPE194 and C-CPE205

To study the interaction between the C-CPEs and claudin-4, we performed ELISA with claudin-4-displaying BV, as described previously [24]. When C-CPEs were added to claudin-4-displaying

Author's personal copy

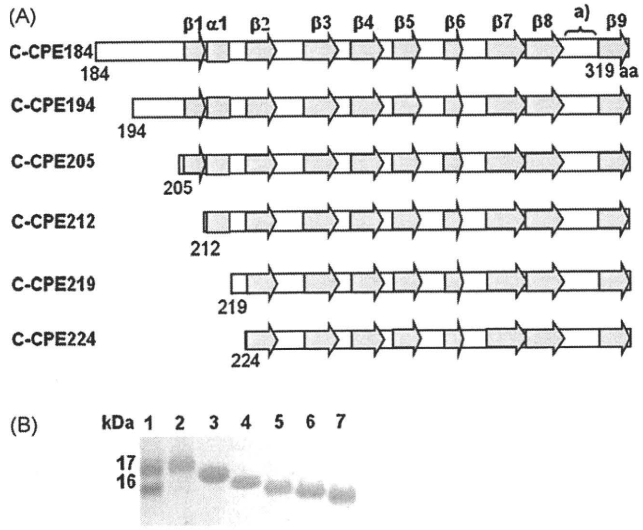


Fig. 2. Preparation of C-CPEs. (A) Schematic structure of C-CPEs. Van Itallie et al. determined the 3-dimensional structure of C-CPE194 containing nine β-sheets and one α-helix [26]. Based on the structural information, we designed five N-terminal truncated C-CPE184 derivatives. (B) CBB staining. C-CPEs were prepared and then purified by affinity chromatography. Lane 1, a maker for molecular weight; lane 2, C-CPE184; lane 3, C-CPE194; lane 4, C-CPE205; lane 5, C-CPE212; lane 6, C-CPE219; lane 7, C-CPE224.

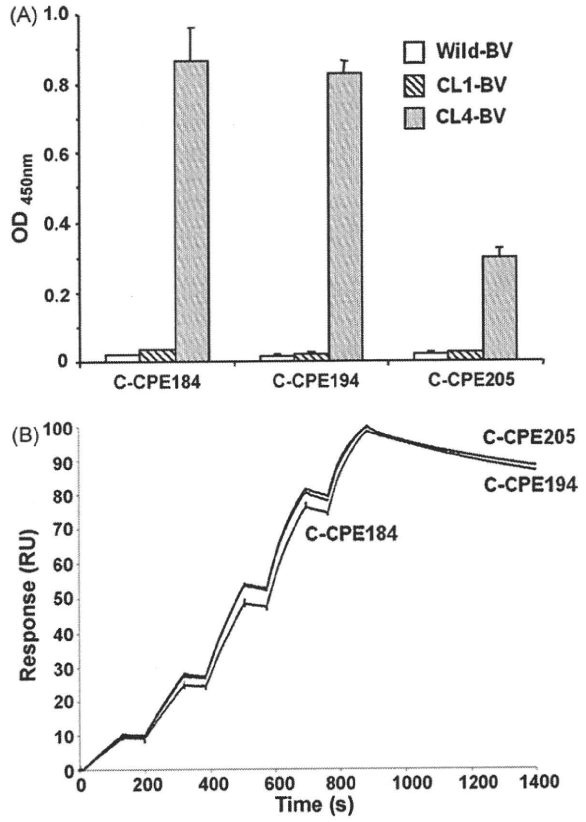


Fig. 3. Interaction of C-CPEs with claudin. (A) ELISA. The immunoplate was coated with wild-type BV (Wild-BV), claudin-1-displaying BV (CL1-BV) or claudin-4-displaying BV (CL4-BV), and then C-CPEs were added to the well. C-CPEs bound to BVs were detected by the addition of anti-his tag antibody and a labeled secondary antibody. Data are means ± SD ($n = 3$). (B) SPR assay. Claudin-4 was immobilized on a CM5 sensor chip by the amine-coupling method. C-CPEs were injected sequentially at concentrations of 1.25, 2.5, 5, 10 and 20 nM. The association phase was monitored for 120 s at a flow rate of 10 μl/min, and the dissociation phase was followed for 600 s at the same flow rate. The maximum values of response (Rmax) for all curves were compensated to 100 RU.

Table 3
Binding kinetics of C-CPEs to claudin-4.

Derivatives	k_a (1/Ms)	k_d (1/s)	K_D
C-CPE184	5.96×10^5	2.55×10^{-4}	429 pM
C-CPE194	7.13×10^5	3.24×10^{-4}	455 pM
C-CPE205	7.67×10^5	2.87×10^{-4}	374 pM

BV-adsorbed immunoplates, C-CPE194 and C-CPE205 bound to claudin-4-displaying BV but not mock BV or claudin-1-displaying BV (Fig. 3A). We performed SPR analysis to compare the affinities of C-CPEs to claudin-4. Claudin-4 proteins were fixed on the sensor chip, and C-CPEs were injected. Then, we measured the interaction between claudin-4 and C-CPEs. As shown in Fig. 3B and Table 3, C-CPE184, C-CPE194 and C-CPE205 had almost the same affinity to claudin-4 with K_D values of 429, 455 and 374 pM, respectively. The association and dissociation rates of C-CPE194 and C-CPE205 were also similar to those of C-CPE184. C-CPE184, C-CPE194 and C-CPE205 showed similar TJ-modulating activities in Caco-2 monolayer cells; their EC50 values were 0.49, 0.57 and 0.51 μg/ml, respectively (Fig. 4A and Table 4). We performed in situ loop assays to examine the jejunal absorption of FD-4 by C-CPEs. C-CPE194 and C-CPE205 enhanced the jejunal absorption of FD-4 similar to C-CPE184 at 0.2 mg/ml (Fig. 4B–D). Treatment with C-CPE194 or C-CPE205 at 1.0 mg/ml yielded a greater and earlier absorption of FD-4 than treatment at 0.2 mg/ml (Fig. 4B, C). We could not test 1.0 mg/ml of C-CPE184 due to its low solubility.

3.4. Jejunal and pulmonary absorption of hPTH(1-34) by co-treatment with C-CPE194

C-CPE194 enhanced the jejunal absorption of FD-4 to a similar extent as C-CPE184 and C-CPE205; C-CPE194 was also 30- and 3-fold more soluble than C-CPE184 and C-CPE205, respectively. C-CPE194 enhanced the jejunal absorption of hPTH(1-34) at 0.2 and 4.0 mg/ml (Fig. 5A). The AUC values were increased 11.0- and 18.4-fold as compared to the vehicle-treated group (Fig. 5B), and the Cmax and BA of the jejunal absorption of hPTH(1-34) were also increased by C-CPE194 (Table 5). Additionally, the pulmonary absorption of hPTH(1-34) was enhanced by C-CPE194 (AUC = 3080.0 ± 1994.3 ng·min/ml in vechicle-treated group, AUC = 13,397.7 ± 5830.1 ng·min/ml in C-CPE194 (0.8 mg/ml)-treated group) (Fig. 5C, D). The Cmax and BA of hPTH(1-34) were also increased by C-CPE194 (Table 5).

4. Discussion

Biologics are generally hydrophilic and poorly absorbed by the mucosa; therefore, many biologics are administered via injection. The development of a delivery system to allow biologics to pass across the epithelial barrier in mucosa is a pivotal issue for pharmaceutical therapy with biologics, since mucosal administration is needle-free, non-invasive, convenient and comfortable for patients [30,31]. We previously found that C-CPE184 enhanced jejunal absorption of dextran with a molecular mass of <10 kDa through its modulation of the claudin-4 barrier [21]. In the present study, we investigated the effect of a claudin-4 modulator on the mucosal absorption of a biologic, hPTH(1-34), and we found that a claudin-4 modulator is also a potent jejunal, nasal and pulmonary absorption enhancer of this biologic.

CPE is a 35-kDa polypeptide consisting of 319 amino acids [32]. The functional domain of CPE is divided into an N-terminal toxic domain and a C-terminal receptor-binding domain [33]. The receptor-binding fragments of CPE correspond to amino acids 169–319, 171–319, 184–319, 194–319 and 290–319 [20,26,33–35]. Among these fragments, only C-CPE184 and C-CPE194 have been

Author's personal copy

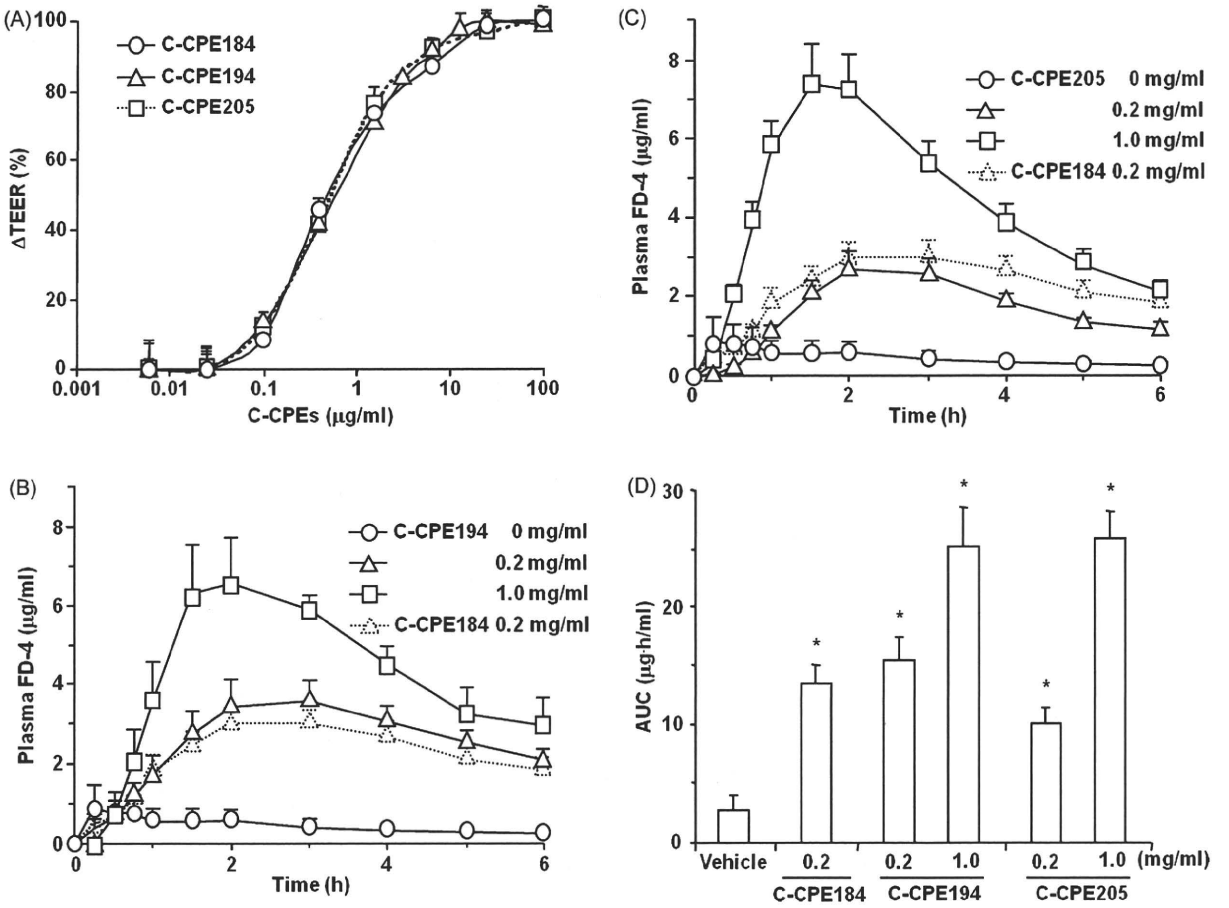


Fig. 4. Modulation of the TJ-barrier by C-CPEs. (A) Caco-2 cells were seeded on a BioCoat™. When TJ-barriers were developed and the cell sheets reached a plateau in their TEER value, C-CPEs were added to the wells from the basal side at the indicated concentration. After 18 h, the TEER was measured. The ΔTEER was calculated as the ratio to reduced TEER values at 0 and 100 μg/ml of C-CPE184 as 0% and 100%, respectively. Data are mean ± SD ($n = 3$). (B–D) Jejunal absorption of FD-4. Jejunum were treated with FD-4 and C-CPEs at the indicated concentration. Time-course changes in plasma FD-4 levels (B, C) and AUC from 0 to 6 h (D). Data are means ± SE ($n = 4$–9). *Significantly different from the vehicle-treated group ($p < 0.05$).

proven to bind to claudin-4 [10,26], and a mucosal-absorption-enhancing effect was proven only for C-CPE184 [21]. The claudin-4 modulator C-CPE184 is a 400-fold more potent jejunal absorption enhancer of dextran as compared to a clinically used absorption enhancer, sodium caprate [21]. However, the low solubility of C-CPE184 (<0.3 mg/ml in PBS) has limited its applicability. This low solubility may result in the slow onset of TJ opening due to limiting the access of C-CPE184 to claudin. Last year, Van Itallie et al. made a breakthrough by truncating the N-terminal of C-CPE184 by 10 amino acids to yield C-CPE194 [26]. They found that C-CPE194 has affinity to claudin-4 and high solubility (>10 mg/ml); moreover, they determined the 3-dimensional structure of C-CPE194, which contains nine β-sheets and one α-helix, and they suggested that the intervening surface loop spanning region 304–312 (located between the β8 and β9 sheets) may be a claudin-binding domain. Based on the structural data for C-CPE194, we prepared five N-terminal-truncated C-CPE184 derivatives: C-CPE194, C-CPE205, C-CPE212 (without the β1 sheet), C-CPE219 (without the β1 sheet and α helix), and C-CPE224 (without the β1 sheet and α helix). C-CPEs lacking the β1 sheet are soluble in PBS containing 2 M Urea but insoluble in PBS. C-CPE184, C-CPE194 and C-CPE205 have almost the same kinetics parameters for binding to claudin-4 and the same TJ-barrier modulating activity (Table 3, Fig. 4A). Thus, the β1 sheet appears to be critical for maintaining the structure of C-CPE, and the N-terminal region corresponding to amino acids 184–204 may not be involved in claudin-4 binding or TJ-barrier modulation.

Table 4
TJ-modulating activities of C-CPEs in Caco-2 cells.

Derivatives	EC50 values[a]
C-CPE184	0.49 μg/ml
C-CPE194	0.57 μg/ml
C-CPE205	0.51 μg/ml

[a] The concentration of C-CPEs at which a 50% decrease in TEER value was observed in Fig. 4A.

Biologics must escape degradation by mucosal enzymes to be absorbed by the mucosa. C-CPE184 (0.2 mg/ml) did not enhance jejunal or pulmonary absorption of hPTH(1-34). However, when hPTH(1-34) was administered 4 h after treatment with C-CPE184, jejunal, pulmonary and nasal absorption was enhanced. Thus, hPTH(1-34) may be degraded in the jejunal and pulmonary mucosa before the enhancement of its absorption by co-administered C-CPE184. Indeed, another claudin-4 modulator, C-CPE194, which is 30-fold more soluble than C-CPE184, significantly enhanced the jejunal and pulmonary absorption of hPTH(1-34). These findings indicate that modulation of claudin-4 may be a potent strategy for mucosal-absorption enhancement of biologics.

Meanwhile, a critical issue in the clinical application of the claudin-4 modulator as a mucosal-absorption enhancer is its safety. Problems with the safety of a claudin-4 modulator include the safety of a claudin-4 modulator in itself and the safety of the modulation of claudin-4, i.e., entry of unwanted substances by the